

2023 年度 山口大学の国際交流活動



山口大学国際戦略室



目次

はじめに	1
第1章 2023年度の国際戦略室の活動	2
1. 国際戦略室の組織と役割	3
2. 2023年度の本学の国際連携活動	3
3. 国際交流協定	20
(1) 2023年度の国際交流協定の締結等	20
(2) 大学等間国際交流協定	20
(3) 部局等間国際交流協定	25
4. 海外拠点	29
5. 本部への海外からの来訪者	30
6. 本学学長の海外訪問	31
7. 海外協定校・国際ネットワークとの連携	31
8. 研究者の交流	32
9. 職員の研修	32
10. 海外同窓会活動	35
第2章 2023年度の留学生部門の活動	36
1. 留学促進のための環境整備	40
2. 海外学生交流促進のための広報活動	41
3. 留学生センターにおける学生派遣	41
第3章 2023年度の学術研究部門の国際交流活動	42
独立行政法人日本学術振興会助成	43
1. 論文博士号取得者に対する支援事業	43
2. 二国間交流事業（共同研究・セミナー）	43
3. 外国人研究者招へい事業	44
4. 国際共同研究事業	45
第4章 2023年度の各部局の国際交流活動	46

はじめに

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として、人間力とバイタリティーあふれる人材を輩出できる大学、教員と学生が共に育つ「共育できる大学」を目指しています。この「共育」には、大学と地域が連携してグローバル化の中で共に学び発展すること、留学生や研究者を迎え、送り出すことによって、それらの国々と日本が相互の理解を深め、協力し合って平和で持続性のある世界を目指して手を携えるという意味も含まれています。これらの認識に基づき、本学はグローバル化を総合的に推進するとともに、留学生を含む全ての大学人が、互いの歴史、文化、民族、言語、宗教などの違いを超えて、共感・共鳴・協奏できる「ダイバーシティ・キャンパス」の実現を目指しています。

山口大学は、大学グローバル化推進に際し、学長のリーダーシップが十分に発揮できる意思決定及び組織体制を構築するため、2016年6月に「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定し、学長のリーダーシップのもと、国際戦略室は関連する学内外の組織とも連携を深めながら、大学の国際化について様々な議論を重ね、大学グローバル化に向けた活動を推進しております。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症により海外との往来に制限を受けていた時代の終焉を迎え、コロナ以前とほぼ同様の国際交流活動を実施することができました。キャンパス内での留学生の姿も増え、国際交流活動が活気を取り戻してきたことは大変喜ばしいことです。また、コロナ禍で培ったオンラインコミュニケーションスキルを活かし、国際学会やシンポジウムなどを今まで以上に容易に開催できるようになりました。コロナ禍を乗り越えた今、引き続き様々な形で国際交流活動を実施できるよう取り組んでまいります。

本報告書では、第1章にて本学における国際化に向けた取り組みを2023年度の国際戦略室の活動をもとに取り纏め、留学生部門、学術研究部門にて実施された国際交流事業をそれぞれ第2章、第3章に掲載いたしました。また第4章には、各部局の国際活動の取り組みを掲載しております。

この報告書により、学内のみならず本学に関係される多くの方々、大学を取り巻く地域の方々に、本学の国際化の状況について広く知って頂く一助になれば幸いです。同時に、報告書をお読み頂いた方々から多くの貴重な意見を頂くことができれば、本学の国際化推進に役立つものと期待しています。これからも大学内外の関係者の皆様にお知恵をお借りしながら、積極的に山口大学の国際化を推進してまいりますので、皆様方の力強いご支援をお願いいたします。

国際戦略室

第 1 章 2023 年度の国際戦略室の活動

1. 国際戦略室の組織と役割

2016年5月30日に、本学における教育、研究及び社会連携活動のうち国際的な活動に係る戦略の企画、立案及び実施に向けた方策を決定するため、「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定した。本規則により、本学の国際戦略に関しては学長が決定を行い、国際戦略に基づいた本学の教育研究の国際交流及び研究成果を基盤とした国際社会への貢献を推進するため、山口大学国際戦略室が置かれた。

国際戦略室は、国際連携担当副学長及び教職員を構成員とし、以下の業務を行う。

- (1) 本法人の国際連携に係る企画、立案及び実施に関すること。
- (2) 国際交流に関する情報の収集、整理及び提供に関すること。
- (3) 国際協力・国際貢献活動に関すること。
- (4) 国際交流協定に基づく活動の推進に関すること。
- (5) 海外に向けた本学の国際交流に係る情報の発信に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事項

毎月1回構成員による国際戦略室会議を開催し、上記業務に関する事柄について協議及び情報共有を行っている。

また、国際戦略室の活動を支援する事務組織として、学生支援部国際交流課が置かれ、国際戦略室と共に本学の国際化に関する企画立案及び実施を担っている。

2. 2023年度の本学の国際連携活動

○ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジから池田恭子国際教育コーディネーターが来学されました

令和5年5月15日（月）、本学の国際交流協定校であるハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ（以下、KCC）から池田恭子国際教育コーディネーターが来学されました。富本幾文国際連携担当副学長補佐への表敬訪問をはじめ、本学学生を対象としたKCCについての説明会や、国際総合科学部の教員・学生との懇談会、留学生寮（YU国際シェアハウス）の見学を実施しました。

表敬訪問では、富本副学長補佐から、山口大学の紹介や、本学のSDGsへの取組について説明が行われました。これに対して、池田氏からは、山口という土地は留学生にとって、安心して生活できる環境であり、本学に留学したKCCの交換留学生在が充実した生活を送れていることへの感謝の意が述べられました。

本学学生を対象としたKCCについての説明会には、国際総合科学部生を中心に学生35名、教職員7名が参加しました。説明会では、カウアイ島の自然を活かした授業を実施していることについて、カウアイ島のビーチや自然の写真と共に魅力たっぷりに紹介されました。

国際総合科学部教員・学生との懇談会では、これからKCCに交換留学する学生への質問

に丁寧に答えられ、本学学生が KCC に留学する際には、カウアイ島山口県人会の方々がホストファミリーとしてサポートくださる体制が整っていることについても説明がありました。

最後に、YU 国際シェアハウスの見学が行われ、本学に留学している KCC の学生とも懇談されました。学生からは、山口の自然豊かな環境で留学生生活を送っていること、サークル活動に参加し、本学学生と充実した交流が行われていることについて話があり、終始穏やかな雰囲気での懇談は終了しました。

山口大学は、今後も海外協定校との連携を大切にし、きめ細やかなサポートを伴った活発な学生交流・研究者交流を推進いたします。



○米国・ケント州立大学から Anthony Tosi 准教授が来学

令和 5 年 6 月 1 日、米国オハイオ州のケント州立大学から Anthony Tosi 准教授が吉田キャンパスに来学されました。同大学とは先月、大学間国際交流協定を締結したばかりで、2025 年春からの交換留学開始を見込んでいることから、本学学生向けに大学紹介を実施いただきました。

大学紹介に先立ち、初めに、米国の協定校から本学に交換留学で在籍している学生との懇談会を開き、山口大学での留学生活について意見交換を実施しました。学生からは、本学の留学生サポートや、留学生の視点から見たキャンパス外の生活環境等の話があり、Anthony 准教授は大学に持ち帰り、日本への留学を希望している学生に、山口大学の良さを伝えたいとの感想をいただきました。

その後、LOEHR MARC 館長（学術基盤・情報化推進担当副学長）の案内により埋蔵文化資料館、及び有村貞則経済学部長の案内により商品資料館を視察しました。Anthony 准教授は両施設が保有する資料の数々に強い関心を示されていました。キャンパス視察後には富本幾文国際連携担当副学長補佐と面会を行い、その後、学生へ向けてケント州立大学の紹介を行いました。

Anthony 准教授からは、大学の概要と留学情報をオハイオ州の景観やキャンパスの写真の交えて紹介いただき、米国留学に興味のある学生にとって有益なイベントとなりました。

今回の Anthony 教授の来学をきっかけとして、ケント州立大学との学生交流が活発となることを期待しています。



○タイのスラナリー工科大学から表敬訪問がありました

令和 5 (2023) 年 7 月 3 日 (月)、4 日 (火)、農学部の国際交流協定校であるタイのスラナリー工科大学農業産業技術部から Neung Teaumroong (ヌン・トゥムルン) 学部長ら一行 7 名の訪問がありました。

今回の訪問は、令和 2 (2020) 年の部局間交流協定締結後初となり、3 日午前中の農学部への表敬訪問には、宮田浩文学部長、執行正義副学部長 (国際担当)、薬師寿治国際交流推進委員が出席し、双方の大学の紹介と意見交換が行われました。その後、農学部共用機器室や中高温微生物研究センター、R I 実験施設、植物工場、附属農場などを見学されました。

3 日午後には、農学部大会議室において、両大学の研究者による交流推進セミナーが開催され、本学の大学院修了生でありスラナリー工科大学講師の Sukanya Aiamla-or (スカンヤ・アイアムラー・オル) 博士を含む 5 名の研究者による研究紹介があり、本学からも中高温微生物研究センターの研究者や工学系の研究者など 6 名の研究紹介が行われ、本セミナーから研究における両大学のジナジー効果が期待されます。

また、4 日には、附属図書館、国際交流会館、商品資料館などの学内施設を見学の後、石井由理国際連携担当副学長への表敬訪問がありました。



[農学部長表敬訪問]

前列左から、SUT: Ratchadaporn Oonsivilai 准教授、薬師教授、Neung 学部長、宮田学部長、Apichat Boontawan 准教授

後列左から、SUT: Sukanya 講師、Panlada Tittabutr 准教授、Patcharin Siringan 准教授、Surintorn Boonanuntanasam 准教授、執行教授



[懇談の様子]

最後に農学部において、両大学学部の今後の交流に関する協議が行われ、今回の来訪をきっかけに、両者の研究交流・学生交流がより一層活発になることが期待されます。

【スリナリー工科大学（SUT）：タイ】

SUT はタイ東北部に位置する、農業工学、理学、工学、社会技術、医学、公衆衛生、看護、歯学の全 8 学部からなる国立の研究大学です。世界 27 か 国の 100 を超える研究機関と交流協定を締結するなど、2020 年に 30 周年を迎えたばかりの若い工科大学として、活発な教育研究活動を展開しています。

山口大学農学部は、SUT 農業技術学部・理学部と 2020 年 10 月 23 日に国際交流協定締結を締結しました。



【交流推進セミナー（スカンヤ博士による研究紹介）】



【交流推進セミナー（セミナー参加者）】



【中高温微生物研究センター訪問（薬師教授による発酵関連実験施設の紹介）】



【RI 実験施設訪問（真野教授による館内の説明）】



【附属農場訪問（荒木教授による見島牛の説明）】



【総合図書館訪問（隆野図書系主任による館内の説明）】



附属農場訪問（荒木教授によるスマート農業機械の説明）



副学長（国際連携担当）表敬訪問（左：石井副学長、右：ヌン学部長）



留学生支援室訪問（中村留学生交流係長による留学生支援体制の説明）



SUT 訪問団と石井副学長、田中国際交流課長、執行教授

○山口大学マレーシア同窓会を開催しました

令和5年8月8日に、マレーシア工科大学マレーシア日本国際工科院（UTM-MJIIT）が所在する UTM クアラルンプールキャンパスにおいて、マレーシア同窓会を開催しました。山口大学海外同窓会マレーシア支部は、平成28年に設立され、設立時の開催以降2回目となる今回は、卒業生、また、来賓として稲垣良隆 JICA マレーシア事務所次長、Isrami Bin Ismail 東方政策元留学生同窓会（ALEPS）代表、濱田勇 MJIIT プロジェクトチーフアドバイザーほか MJIIT 関係者2名、及び本学教職員らを含め総勢約30名が出席しました。



会の冒頭で、谷澤幸生山口大学長からオンラインで開会の挨拶が述べられ、本学の最近の動向の紹介、及び本学発展のための卒業生への協力依頼がありました。その後、マレーシアとの教育研究交流を活発に行っている、大島直樹・技術経営研究科教授から同研究科の取り組みについて、また、古賀毅・創成科学研究科准教授からは、本学の工学部生と MJIT の間で実施している短期研修「イノベーティブデザインプログラム」について、それぞれ紹介が行われました。その後、卒業生の活躍として、Fawzi Bin Ahmad 同窓会長、及び古賀准教授の下で学術研究員として研究に従事する NURHAYATI BINTI MD ISSA 氏から、在学時の思い出と現在の活動についてそれぞれ講演が行われました。続くパネルディスカッションでは、富本幾文・国際交流担当副学長補佐をモデレーター、各スピーカーと Isrami 氏をパネリストとし、“山口大学に留学生を呼び込むにはどうしたらよいか”とのテーマのもと、意見交換を行いました。また、会場の参加者からも、海外の大学では導入が進んでいるオンラインコースの設置の提案等も行われ、各卒業生から、本学の今後の発展のための意見を直接聞くことができる貴重な時間となりました。



会の最後には懇親の時間も設けられ、旧友や関係者と談笑する様子をうかがうことができ、本同窓会を盛況のうちに終えることができました。

本学では、2022 年度からマレーシアを重点拠点国として選定し、同国との交流を推進しています。本同窓会が同国から本学へ留学を希望するきっかけとなることを期待しています。

○シャリフ・ヒダヤトゥラー イスラム宗教国立大学を訪問し、大学間国際交流協定の更新署名式を行いました

大学研究推進機構 生命科学分野の村田 智昭 准教授が、2023 年 8 月 28 日～9 月 4 日にインドネシアの協定校である、シャリフ・ヒダヤトゥラー イスラム宗教国立大学(以下 UIN)を訪問しました。本学と UIN は大学間国際交流協定を締結し、締結から 5 年を迎える本年が協定の更新年にあたることから、UIN 学長である Professor Asep Saepudin JAHAR 氏を表敬訪問後、更新協定書への署名式が執り行われました。現地での様子は、UIN の HP にも掲載されています。

また、この他に、UIN のスタッフと研究面や技術面での意見交換や、附属病院への訪問、UIN の学生へ向けた特別講演と実習を実施するなど、両大学にとって絆を深めることができる有意義な訪問となりました。

協定締結後は新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限が続き十分な交流はできていませんでしたが、制限が緩和された今後は、UIN との活発な交流を行っていくことが期待されます。



○西オーストラリア大学よりピーター・バット博士が来訪され、農学部国際交流セミナーを開催しました

令和5(2023)年9月5日(火)午後、農学部国際交流セミナーを開催しました。ゲストとして、西オーストラリア大学(オーストラリア)より Peter・J・Batt 名誉リサーチ・フェローをお迎えし、西オーストラリアの農作物・食料安全保障戦略の現状と課題について、エコノミストの立場からご紹介いただきました。また、大学院創成科学研究科農学系学域の執行正義教授から、西オーストラリアと山口の地域間対比から見える山口県の課題について話題提供がありました。セミナーは、農学分野の学生にとってサイエンスとはまた違う観点から食料安全保障についての知見が得られる機会となりました。大変興味深いテーマに参加学生等からも活発な質疑が行われ、石井由理国際連携担当副学長の閉会挨拶により成功のうちに終了しました。また、講演前に農学部の宮田浩文学部長と、双方の活動・研究紹介などについての歓談がありました。

なお、翌日の9月6日(水)には、石井由理国際連携担当副学長への表敬訪問が行われました。ピーター・バット博士は、国際園芸学会の理事や、国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)のタスクフォースメンバーを務め、世界を舞台に活躍する農業・園芸経済学者である一方で、零細農家と機関投資家を結びつけるコンサルタントでもあり、それぞれの活動について紹介がありました。石井副学長からは、本学と西オーストラリア大学との教育・研究交流機会の拡大について依頼があり、これに対してバット博士からは、執行教授との研究面での交流を深めるとともに、学生交流プログラムの実施等、今後の連携の進展について意欲が示されました。

ピーター・バット博士、山口大学への来訪ありがとうございました。



宮田浩文農学部長による開会挨拶



バット博士による講演の様子



執行教授による話題提供



石井副学長による閉会挨拶



質疑応答の様子



左から、宮田農学部長、執行教授、バット博士



表敬訪問：左から、執行教授、石井副学長、バット博士、田中国際交流課長、田中農学部事務長

○ナイロビ大学（ケニア）の獣医学生が学長を表敬訪問しました

令和5年9月8日(金)、ナイロビ大学生による学長表敬訪問が吉田キャンパスにて行われました。

本学は現在、文部科学省世界展開力強化事業の一環として、ナイロビ大学との学生間交流によりグローバルな視点から学ぶことで One Health の実践に貢献できる人材の育成に取り組んでいます。

今年度は獣医学部4年生4名とギタウ教授の計5名が来日し、9月4日(月)から15日(金)までの2週間、本学共同獣医学部にて学生間交流、施設見学、および動物感染症総合実習に参加しています。

来日5日目のナイロビ大学生は、習いたての日本語で一人一人が自己紹介をし、日本での印象やケニアとの違いについて話すなど、終始和やかな雰囲気の中で学長との会話を楽しんでいました。またギタウ教授から、大学間交流をより深めるためのいくつかの提案があり、今後全学的にアフリカとのつながりを構築していくことを目標とする本学にとっても、大変有意義な懇談となりました。



○UCL 化学科からの学長表敬訪問

令和5年9月11日に、英国・ユニバーシティカレッジ・ロンドン（UCL）化学科から Alethea Tabor 教授と Tracey Clarke 博士の2名が谷澤学長を表敬訪問されました。

両名は、翌日に本学常盤キャンパスで開催される「The 13th Choshu-London Symposium in Chemistry」で招待講演を行うため、この度来日しました。同シンポジウムは、本学とUCLの学術的な関係強化を深める目的として創設され、ロンドンと山口で交互に開催されています。第12回は2020年3月に常盤キャンパスで開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を受け、直前で中止となりました。第13回となるこの度の開催は、コロナ禍以降最初の実施となります。

本学は、山口県に所在する大学として、長州ファイブに始まるUCLとの150年以上にわたる歴史と交流を継続し活性化するために、同大学との国際交流協定を2007年に締結して以降、教育・研究交流を行っています。今後も同大学との連携を深め、山口県出身の先人たちが新たな時代を築き上げていったように、大きく変化する社会にしなやかに対応し、チャレンジできる人材の育成を行っていく所存です。



○山口大学インドネシア同窓会を開催しました

令和5年9月15日に、インドネシアにあるウダヤナ大学において、インドネシア同窓会を開催しました。山口大学海外同窓会インドネシア支部は、前身のバリ同窓会を引き次ぐ形で令和元年に設立されて以降2回目の開催となる今回は、谷澤幸生・山口大学長、本学卒業生、来賓の勝又晴美・在デンパサール日本国総領事、I Gede Rai Maya Tamaja・ウダヤナ大学学術担当副学長、本学教職員に加えて、日本・山口大学への留学に関心のあるウダヤナ大学の学生も参加しました。

開会にあたり、Tamaja 副学長から、ウダヤナ大学と山口大学の間のような教育・学生交流は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を受けたことにより中断をしたが、本会をきっかけとして交流を促進していきたいとの意欲が述べられました。続いて、谷澤学長からは本学の最近の動向に加えて、本学の発展のための卒業生への協力依頼があり、勝又総領事からは、今年は日本とインドネシアの国交樹立65周年記念を迎え、6月に行われた天皇皇后両陛下のインドネシア公式訪問において、両国関係の更なる進展のために若い世代が大きな役割を担う可能性に期待を寄せたことに触れ、両大学間の緊密な交流関係に感謝を述べられるとともに、今後発展し、輝かしい未来の構築に貢献することを期待されていました。

本イベントでは、本学教員からは研究科の紹介やインドネシアとの教育・研究交流活動の紹介、続いて、同窓生からは在学時の山口での生活や文化の違いへの対応の方法、研究活動について講演がありました。イベントの最後には、パネルディスカッションの形式で会場参

加者との質疑応答が行われ、山口大学で学べる分野や生活費等について多くの質問が挙がり、盛況のうちに会を終えることができました。

今回は、本学を修了後、インドネシア国内の大学の教員として、また、山口県内企業の現地事務所にて勤務している同窓生にそれぞれプレゼンテーションを行っていただきました。また、今回出席できませんでしたが、インドネシア政府の要職に就いている同窓生もおり、本学の卒業生が自国に戻り活躍していることは大変喜ばしいことです。

本学は令和4年度からインドネシアを重点拠点国として選定し、教育・研究交流を戦略的に促進しています。同方針の下、これからもインドネシアの大学との連携を進めて優秀な人材を輩出し、両国の発展に貢献していく所存です。



○宇部高等学校探究科の国際交流学習に本学留学生が参加しました

令和5年10月25日に宇部高等学校で開催された国際交流学習に、本学の創成科学研究科及び技術経営研究科で学ぶ留学生12名が参加しました。本学留学生から、まずは母国についてのプレゼンテーションを行い、その内容に関する質疑応答が行われました。その後、5月に開催されたSDGsセミナーで発表した「宇部市が宇部高生と取り組みたいSDGsテーマ」について、宇部高等学校の学生さんから英語で発表があり、本学留学生がそのプレゼンテーションに対して講評や質問を行いました。宇部高等学校の学生さんからは、「それぞれの国の歴史的背景など知らないことをこの機会に知れてよかった」「外国から見た日本というものが少しつかめた気がする」「もっと英語の勉強を頑張ろうと思った」「今回の交流が一つの大きな機会となった」といった感想が寄せられ、本学の留学生からも宇部高等学校の学生さんのプレゼンテーション内容についての高い評価や、このような貴重な機会に参加できたことへの喜びの声が寄せられました。今回の国際交流学習に参加した留学生の出身国は、中国、ベトナム、マレーシア、東ティモール、バングラデシュ、ケニア、ウガンダ、ナイジェリア、ベナンの9か国となっており、ダイバーシティキャンパスの創造を掲げる本学らしく、宇部高等学校の学生にグローバルで多様な視点を提供することができました。

今後とも山口大学工学部は地域に根差したダイバーシティキャンパスを目指すとともに、高大連携の取り組みに尽力してまいります。



○JICA2023 年度国別研修東ティモール「土木工学」に係る研修で、東ティモール国立大学教員が社会建設工学科にて研修

工学部社会建設工学科では、JICA 事業として東ティモール国立大学（UNTL）工学部土木工学科の支援を行っています。現在、同学科のレオネル教員（Leonel da S. G. Madeira）とフーゴ教員（Hugo da Costa Ximenes）が来日し、それぞれ麻生教授と榎原教授のもとで研修中です。東ティモール国立大学工学部では、来年から新たに修士課程を開設する予定で、二人の教員には、この研修を通じて土木分野での指導的役割が期待されています。



左からレオネル教員、麻生教授、フーゴ教員、榎原教授

○北京師範大学と大学間国際交流協定の更新署名式を行いました

2023 年 11 月 28 日（火）に大学間国際交流協定校である中国の北京師範大学から、WANG Shoujun 副学長ら 5 名が山口大学に来学され、協定更新に係る署名式及び学長表敬を行いました。本学と北京師範大学は、2004 年 2 月に大学間国際交流協定を締結して以降、研究

者交流や学生交流を継続して行っており、北京師範大学が実施している短期語学研修には毎年本学の学生も参加するなど、交流を深めています。本年 11 月が協定の更新月にあたることから、WANG 副学長御一行のご訪問に合わせて更新協定書への署名式を執り行いました。また、署名式後には、谷澤学長との懇談を実施し、山口大学と北京師範大学の今後の良好な関係継続について再確認することとなりました。

学長表敬後は、本学の教育学生担当副学長である葛教授、国際連携担当副学長補佐である経済学部富本教授、経済学部袁准教授と共に懇談会を実施し、北京師範大学の珠海キャンパスやビジネススクールを活用した交流可能性についての意見交換が実施されました。

今回の来訪を通して、両大学の交流の可能性を広げる良い機会となり、今後の更なる活発な交流と発展が期待されます。



○米国・北アリゾナ大学表敬訪問

令和 5 年 11 月 29 日（水）、本学の国際交流協定校である米国の北アリゾナ大学からシニアコーディネーターのメリнда・マーコート氏が本学を表敬訪問されました。訪問は 2 日間にわたって行われ、石井国際連携担当副学長への表敬訪問や関係学部との懇談、日本語授業の視察等が実施されました。工学部においては、同日の午後に工学部国際交流支援室との懇談会、工学教育研究センターとの懇談会が行われました。



工学部国際交流支援室委員との懇談

国際交流支援室との懇談会では、本学工学部からは河村 圭国際交流支援室長（知能情報工学分野・教授）、MACADRE ARNAUD PAUL ALAIN 機械工学分野・准教授、MD. AZIZUL MOQSUD 社会建設工学分野・准教授、小松 隆一応用化学分野・教授、村田 英一電気電子工学分野・教授、黒川 陽太知能情報工学分野・助教、山田 和彦感性デザイン分野・教授、石田 恭子総務企画課長、藤田 泰子学務課長、松永 愛総務企画課総務企画係長が出席し、河村国際交流支援室長から歓迎の挨拶があった後、マーコート氏から挨拶と北アリゾナ大学の概要説明が行われました。その後、本学工学部教員が、各学科の概要について発表し、

今後の学生交流における連携の可能性を協議しました。本学の教員からは北アリゾナ大学の学生の日本語レベル、受入の際に本学側に求められること等に関する質問がなされました。

国際交流支援室との懇談会の後は工学教育研究センターとの懇談会が実施され、森 啓年工学教育研究センター海外派遣支援室長（社会建設工学分野・准教授）、山田 知沙工学教育研究センター海外派遣支援室員（総合技術部技術企画課・グループ長）が出席し、語学研修における連携について協議を行いました。

北アリゾナ大学は、令和 3 年度に文部科学省国際業務研修（国際教育交流担当職員長期研修プログラム）で米国ケント州立大学に派遣された松永係長の調整により締結した国際交流協定校であり、第一期の交換留学生の派遣が始まったところです。今回の訪問は、工学部について理解を深めていただくと同時に、研究者交流・学生交流の可能性を広げる良い機会となりました。「明日の山口大学ビジョン 2030」に掲げるダイバーシティキャンパスの創造に寄与すべく、北アリゾナ大学との連携が一層深まるよう、さらなる協議を進めてまいります。



北アリゾナ大学 メリンダ・マーコート氏



工学教育研究センターとの懇談



河村国際交流支援室長より記念品贈呈



工学部各学科からのプレゼンテーション

○慶尚国立大学校（韓国）から奨学生らが来学されました

2024年1月5日（金）に大学間国際交流協定校である韓国の慶尚国立大学校（以下、慶尚大学校）から、奨学生及び教職員 25 名が山口大学に来学されました。今回の来学は、慶尚大学校の奨学金財団が企画する、奨学生の海外見識を広めるための訪日プログラムの一環であり、奨学金受給者に文化的・歴史的経験を提供し、日本の文化と歴史へのより深い理解を促進することを目的としているとのことでした。

当日はまず、本学に留学中の韓国人学生が、山口大学での生活について発表しました。留学生のリアルな声に、慶尚大学校の皆さんは熱心に耳を傾け、活発な質疑応答が行われました。発表後には、称賛の言葉もいただき、盛況のうちに終えることができました。

次に、図書館と商品資料館を巡るキャンパスツアーを行いました。図書館では、学生向けの設備や利用方法を説明が行われ、商品資料館では歴史ある貴重な展示品を熱心に見学されていました。

最後に、国際交流課から交換留学プログラムについての紹介が行われ、当日のプログラムは幕を閉じました。

今回の訪問を機に、両大学間の学生交流がさらに活発になることを願っています。



○韓国・忠北大学一行が来学されました

令和6年1月12日（金）、本学の大学間国際交流協定校である韓国の忠北大学から電気情報工学部情報工学科のキム・ボンジェ准教授、チョン・ヨンソップ准教授、学生18名が工学部との連携教育プログラムのために本学を訪問し、キム准教授及びチョン准教授が谷澤学長を表敬訪問されました。忠北大学校と本学の交流は、1996年に研究者交流からスタートしており、2001年に部局間の国際交流協定が締結され、その後、日本、中国、韓国の3か国での学生交流事業である創成工学デザインサマープログラム（SP!ED）や創成工学デザイン競技会 CEDC & ICIARE 等で連携を深め、2016年に大学間国際交流協定が締結されております。

今般実施された連携教育プログラムは、2017年に忠北大学のキム・ミへ教授が本学のものづくり創成センターの客員教授として招聘され、CPOT-MECIT コースを視察したことをきっかけに、同教授と本学創成科学研究科機械工学分野の江鐘偉教授、森田実准教授との間で SP!ED の長期版プログラムが構想され、実現したものです。新型コロナウイルス感染症の拡大で長らく実現に至っていませんでしたが、両大学のものづくり創成演習クラスの学生を対象に試行することとなり、1月12日～13日に同プログラムの集大成として2日間の共同プログラムが実施されることとなりました。

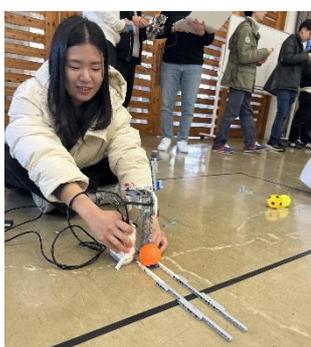
谷澤学長との懇談においては、連携教育プログラムの概要に触れるとともに、今夏に予定されている SP!ED について、本学がホストとなることに話題が及びました。谷澤学長からは、1月9日に『The New York Times（ニューヨーク・タイムズ）』が発表した「52 Places to Go in 2024（2024年に行くべき52カ所）」の中で「皆既日食の道」が見られる北米、オリンピックを控えた「パリ」に続き、吉田キャン



パスが所在する山口市が3番目に選ばれたことについての紹介があり、魅力溢れる山口市、山口大学を是非再訪してほしいとお話がありました。

その後、一行は国立山口徳地青少年自然の家に移動し、日韓混合のグループでフロアカーリングロボット製作が行われ、2日目には製作したロボットによるレースが実施されました。予想を上回る数のフロアカーリングロボットが製作される等、レースは大変盛り上がり、プログラムは盛況のうちに終了しました。

忠北大学とはこれまでも研究者間でのジョイント・セミナーや学生交流を行ってありますが、今般新たな学生交流の枠組みを実施したことにより、異なる文化背景や価値観を理解し、国際的な視野を持つ人材の育成が期待されます。



○JICA 青年研修モルディブ・ヨルダン「地方行政/地域開発」を実施しました

山口大学は、2024年1月15日から1月26日まで、2023年度 JICA 青年研修 モルディブ・ヨルダン「地方行政/地域開発」を実施しました。

この研修は、JICA（国際協力機構）中国センターとの委託契約に基づき、経済学部と国際交流課の教職員が、山口県庁、岩国市、山口市、宇部市、美祢市、萩市の6つの地方自治体の協力を得て行ったものです。

本研修の目的は、発展途上国の若手行政官が、日本の地方行政の発展と地域開発の歴史や地方自治体の役割を学び、自国の課題解決の糸口を見出すとともに、日本の歴史と伝統文化、地域住民との触れ合いを通じて、日本と各国の友好を深めようとするものです。

研修の前半では東広島市にある JICA 中国センターで、経済学部の朝水教授、齋藤准教授及び富本教授（特命）が、観光政策、地域開発、公共行政に関する講義を行い、広島平和記念公園や西条幼稚園を訪問しました。

後半は、山口県庁、岩国市、山口市、宇部市、美祢市、萩市の協力の下、地方行政と直に触れ合いました。萩市では、萩まちじゅう博物館計画及び民間委託の市民総合窓口の役割の説明を受け、明



倫学舎、松陰神社、萩往還道の駅を視察した後、西山教授による政策評価に関する講義を受けました。日本の発展と民主化における地方自治の重要性、少子高齢化の課題を抱える地域の開発計画のあり方を学ぶと共に、日本の歴史・文化や地域の人々の温かさに触れる貴重な機会を得ることができたと思います。

今後も、経済学部はこれまでの経験を活かし、様々な国際交流を活発に行ってまいります。



3. 国際交流協定

(1) 2023 年度の国際交流協定の締結等

2023 年度は、新たに 7 大学と国際交流協定（大学間）を締結し、さらに 21 の大学・機関（大学間 17、学部間 4）との協定を更新した。

その結果、2024 年 3 月末現在で、山口大学は大学等間では 23 カ国・地域の 113 大学・機関と国際交流協定を締結し、学部等間では 9 学部、3 研究科が 27 カ国・地域の 62 大学・機関と国際交流協定を締結している。

(2) 大学等間国際交流協定

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流 覚書
インドネシア	ブラウイジャヤ大学 (Brawijaya University)	2008.04.15	有
	ガジャマダ大学 (Gadjah Mada University)	2008.10.14	有
	ボゴール農科大学 (IPB University)	2010.03.10	有
	ウダヤナ大学 (Udayana University)	2010.03.25	有
	バンドン工科大学 (Bandung Institute of Technology)	2012.05.25	有
	インドネシア大学 (University of Indonesia)	2015.12.16	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流 覚書
インドネシア	地理空間情報庁 (Geospatial Information Agency)	2016.07.20	
	財務省財政均衡総局 (Directorate General of Fiscal Balance, Ministry of Finance)	2015.03.10	
	シャリフ・ヒダヤトゥラー イスラム宗教国立大学 (Syarif Hidayatullah State Islamic University Jakarta)	2018.10.18	
	スブラス・マレット大学 (Universitas Sebelas Maret)	2019.10.10	
韓国	仁荷大学校 (Inha University)	1998.06.25	有
	公州大学校 (Kongju National University)	1999.03.15	有
	韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies)	2003.12.02	有
	慶尚大学校 (Gyeongsang National University)	2004.11.26	有
	ソウル市立大学校 (University of Seoul)	2009.12.21	有
	昌原大学校 (Changwon National University)	2010.02.10	有
	ソウル大学校 (Seoul National University)	2010.02.11	有
	叡州大学校 (Ajou University)	2010.03.08	有
	梨花女子大学校 (Ewha Womans University)	2010.03.08	有
	群山大学校 (Kunsan National University)	2010.04.26	有
	釜山外国語大学校 (Busan University of Foreign Studies)	2014.12.04	有
	全北大学校 (Chonbuk National University)	2015.09.16	有
	忠北大学校 (Chungbuk National University)	2016.12.23	有
	タイ	カセサート大学 (Kasetsart University)	1998.07.03
ソンクラ王子大学 (Prince of Songkla University)		2001.10.29	有
コンケン大学 (Khon Kaen University)		2001.10.30	有
チェンマイ大学 (Chiang Mai University)		2001.10.31	有
シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University)		2001.11.01	有
タイ国農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency)		2008.08.27	
チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University)		2010.09.14	
キングモンクット工科大学ラカバン校 (King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang)		2018.08.10	
タイ国立天文学研究所(NARIT) (National Astronomical Research Institute of Thailand)		2023.1.31	
中国	山東大学 (Shandong University)	1983.06.02	有
	北京師範大学 (Beijing Normal University)	2004.02.09	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流 覚書
中国	武漢理工大学 (Wuhan University of Technology)	2004.05.20	有
	貴州大学 (Guizhou University)	2005.03.25	有
	重慶理工大学 (Chongqing University of Technology)	2010.11.19	有
	首都師範大学 (Capital Normal University)	2011.10.17	有
	江蘇大学 (Jiangsu University)	2013.09.03	有
	大連外国語大学 (Dalian University of Foreign Languages)	2013.12.30	有
	西安交通大学 (Xi'an Jiaotong University)	2015.04.28	有
	香港樹仁大学 (Hong Kong Shue Yan University)	2015.07.20	有
	香港教育大学 (The Education University of Hong Kong)	2015.09.02	有
	遼寧師範大学 (Liaoning Normal University)	2016.03.15	有
	浙江理工大学 (Zhejiang Sci-Tech University)	2017.01.03	有
	湖州師範大学 (Huzhou University)	2017.02.28	有
	大連理工大学 Dalian University of Technology	2021.06.09	有
	長江大学 Yangtze University	2022.10.03	有
	台湾	国立中興大学 (National Chung Hsing University)	2006.03.09
東海大学 (Tunghai University)		2009.09.30	有
逢甲大学 (Feng Chia University)		2009.09.30	有
大葉大学 (Dayeh University)		2009.09.30	有
靜宜大学 (Providence University)		2009.09.30	有
開南大学 (Kainan University)		2012.10.15	有
国立高雄師範大学 (National Kaohsiung Normal University)		2014.11.18	有
淡江大学 (Tamkang University)		2016.12.29	有
玄奘大学 (Hsuan Chuang University)		2023.11.17	有
国立嘉義大学 (National Chiayi University)		2023.12.12	有
世新大学 (Shih Hsin University)		2023.12.28	有
ベトナム	カントー大学 (Can Tho University)	2011.11.16	有
	ベトナム国立農業大学 (Vietnam National University of Agriculture)	2012.03.29	有
	ベトナム国家大学ホーチミン市校 国際大学 (International University - Vietnam National University in Ho Chi Minh City)	2015.07.21	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流 覚書
ベトナム	国立ハノイ教育大学 (Hanoi National University of Education)	2015.07.22	有
	東部国際大学 (Eastern International University)	2015.12.07	有
	ダナン科学技術大学 (University of Science and Technology, The University of Danang)	2017.07.05	有
マレーシア	サラワク大学 (University Malaysia Sarawak)	2012.03.29	有
	マレーシア工科大学 (University of Technology, Malaysia)	2012.09.05	有
	クアラルンプール大学 (University of Kuala Lumpur)	2016.07.13	有
	マラ工科大学 (University of Technology MARA)	2017.07.05	有
ラオス	ラオス国立大学 (National University of Laos)	2012.04.12	有
ミャンマー	イエジン農業大学 (Yezin Agricultural University)	2015.01.12	
ケニア	ナイロビ大学 (The University of Nairobi)	2023.12.15	有
イギリス	シェフィールド大学 (University of Sheffield)	1997.11.28	有
	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London)	2007.11.19	
	セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2012.11.05	協定書内に 記載有
	エディンバラ大学 (The University of Edinburgh)	2018.11.12	
	バース大学 (University of Bath)	2019.08.05	有 (医学部)
	イーストアングリア大学 (University of East Unglia)	2023.10.02	
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学 エアランゲン・ニュルンベルク (Friedrich-Alexander University Erlangen- Nuremberg)	2003.03.17	有
	ホフ大学 (Hof University of Applied Sciences)	2015.03.16	有
	ベルリン・ボイト工科大学 (Berlin University of Applied Sciences and Technology)	2015.08.17	有
フランス	リール大学 (The University of Lille)	2015.10.16	有
	ボルドー大学 (The Univeristy of Bordeaux)	2019.09.13	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流 覚書
スペイン	サラゴサ大学 (University of Zaragoza)	2014.11.27	有
	バルセロナ自治大学 (Autonomous University of Barcelona)	2015.09.14	
	ハイメ I 世大学 (Jaume I University)	2017.10.26	有
ハンガリー	エトヴェシュ・ロラーンド大学 (Eotvos Lorand University)	2015.05.25	協定書内に 記載有
	カーロリ大学 (Károli Gáspár University of the Reformed Church in Hungary)	2015.08.18	有 (国際総合科学部)
ロシア	モスクワ大学 (M.V. Lomonosov Moscow State University)	2015.03.05	
	ロシア工科大学 (MIREA - Russian Technological University)	2015.11.26	
	ロシア国立農業大学 モスクワ・ティミリャーゼフ農業アカデミー (Russian State Agrarian University - Moscow Timiryazev Agricultural Academy)	2017.09.07	
リトアニア	ヴィータウタス・マグヌス大学 (Vytautas Magnus University)	2015.09.03	有
デンマーク	サザンデンマーク大学 (University of Southern Denmark)	2016.05.26	有
アメリカ 合衆国	オクラホマ大学 (University of Oklahoma)	1996.02.19	有
	ハワイ大学ヒロ校 (University of Hawai'i at Hilo)	2015.02.25	
	中央フロリダ大学 (University of Central Florida)	2015.04.16	有
	カリフォルニア州立大学ポリテック大学ポモナ校 (California State Polytechnic University, Pomona)	2015.03.20	
	フィッチバーグ州立大学 (Fitchburg State University)	2015.12.21	有
	イーストウエストセンター (East-West Center)	2018.05.16	
	ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ (University of Hawai'i Kaua'i Community College)	2018.08.07	有
	マンハッタンビル大学 (Manhattanville College)	2016.07.19	有
	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ (University of Hawai'i Kapi'olani Community College)	2019.05.13	
	北アリゾナ大学 (Northern Arizona University)	2022.04.28	有
	ケント州立大学 (Kent State University)	2023.05.23	有
	カウアイ山口県人会 (Kaua'i Yamaguchi Kenjin Kai)	2018.09.24	有
カナダ	リジャイナ大学 (University of Regina)	1996.02.07	有
チリ	コンセプション大学 (University of Concepcion)	2016.01.13	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
ペルー	ラ・モリーナ国立農業大学 (La Molina National Agrarian University)	2017.06.06	有
	国立サンマルコス大学 (National University of San Marcos)	2017.08.28	有
	サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学 (Saint Ignatius of Loyola University)	2017.08.29	有
	ペルー国家防災庁 (National Institute of Civil Defense (INDECI))	2017.08.29	
オーストラリア	ニューカッスル大学 (University of Newcastle)	2003.08.08	有
	シドニー工科大学 (University of Technology, Sydney)	2012.05.30	有

(3) 部局等間国際交流協定

国・地域名	締結部局	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
インドネシア	工学部	マランイスラム大学 医学部 (Faculty of Medicine, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 農学部 (Faculty of Agriculture, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 工学部 (Faculty of Engineering, Islamic University of Malang)	2015.07.31	
		リアウ大学 工学部 (Faculty of Engineering, Riau University)	2014.12.24	有
	共同獣医学部	アイルランガ大学 獣医学部 (Faculty of Veterinary Medicine, Airlangga University)	2018.07.04	有
		ガジャマダ大学 獣医学部 (Faculty of veterinary medicine, Gadjah Mada University)	2008.10.14	有
		ボゴール農科大学 獣医学部 (Faculty of veterinary medicine, Bogor Agricultural University)	2010.03.10	
理工学研究科	国家防災庁 データ・情報・広報センター (Center of Data, Information and Public Relations, National Disaster Management Agency)	2016.01.21		
韓国	理学部	韓国天文研究院 電波天文研究部 (Radio Astronomy Division, Korea Astronomy and Space Science Institute)	2010.03.15	
	工学部	又松大学校 鉄道物流学部 (College of Railroad and Transportation, Woosong University)	2010.02.01	
	医学部	チェジュハラ大学看護学部及び保健学部 (The School of Nursing and school of Health Sciences Cheju Halla University)	2019.06.05	

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
タイ	医学部	マヒドン大学 看護学部 (Faculty of Nursing, Mahidol University)	2001.03.26	
	農学部	キングモンクット工科大学 トンブリ校 生物資源工学研究科 (School of Bioresources and Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi)	2006.05.23	有
		タクシン大学 技術・地域開発学部 Faculty of Technology and Community Development, Thaksin University)	2012.01.16	
		メージョー大学 農学生産学部 (Faculty of Agricultural Production, Maejo University)	2012.02.23	有
		ラジャマンガラ工科大学 農業産業技術学部 (Faculty of Agro-Industrial Technology, Rajamangala University of Technology Tawan-ok)	2013.07.11	有
		メーフールアン大学 理学部 (School of Science, Mae Fah Luang University)	2016.01.04	有
	スラナリー工科大学 農業技術学部・理学部 (Institute of Agricultural Technology, Institute of Science, Suranaree University of Technology)	2020.10.23	有	
工学部	シラパコーン大学 工学・産業技術学部 (The Faculty of Engineer and Industrial Technology, Silpakorn University)	2019.05.09		
中国	教育学部	復旦大学 情報科学工程学院 (School of Information Science and Engineering, Fudan University)	2005.09.23	有
	医学部	大連医科大学 (Dalian Medical University)	2006.12.14	
		香港大学 医学部看護学科 (School of Nursing, LKS Faculty of Medicine, The University of Hong Kong)	2022.11.23	
	工学部	上海交通大学 環境科学与工程学院 (School of Environmental Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University)	2004.02.11	
		西華大学 (Xihua University)	2007.02.05	有
		四川大学錦江学院 (Jinjiang College, Sichuan University)	2019.06.20	有
	国際総合 科学部	山東農業大学 外国語学院 (College of Foreign Languages, Shandong Agricultural University)	2016.03.15	有
東アジア 研究科	復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2001.10.29		
経済 学部	復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2019.11.04		

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
台湾	経済学部	国立高雄餐旅大学 (National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism)	2012.03.09	有
	医学部	国立台湾大学 医学院 (College of Medicine, National Taiwan University)	2009.04.01	
	理学部	台湾師範大学 理学院 (College of Science, National Taiwan Normal University)	2016.12.30	
	教育学部	淡江大学 文学院 (College of Liberal Arts, Tamkang University)	2013.07.23	有
	人文学部	東呉大学 人文社会学院 (School of Liberal Arts and Social Sciences, Soochow University)	2014.09.19	
マレーシア	工学部	ペトロナス工科大学 (Petronas Technological University)	2018.10.11	有
		マレーシア・プトラ大学 (University Putra Malaysia)	2020.03.26	
		トゥンフセインオンマレーシア大学 (Universiti Tun Hussein Onn Malaysia)	2020.04.30	
	技術経営研究科	マラ工科大学 (University of Technology MARA)	2017.07.05	
モンゴル	工学部	モンゴル国立大学 工学応用科学部 School of Engineering and Applied Sciences, National University of Mongolia	2021.05.10	有
		モンゴル国立大学 文理学部 School of Arts and Sciences, National University of Mongolia	2021.05.10	有
	共同獣医学部	モンゴル国立生命科学大学 獣医学研究所 (Institute of Veterinary Medicine, Mongolian State University of Life Sciences)	2015.11.13	
ネパール	連合獣医学研究科	農業林業大学 畜産獣医水産学部 (Faculty of Animal Science, Veterinary Science and Fisheries, Agriculture and Forestry University)	2015.03.05	
	経済学部	ネパール行政職員大学 (The Nepal Administrative Staff College)	2020.01.24	
バングラデシュ	理学部	バングラデシュ核エネルギー・食物・放射線生物学研究所 (Institute of Food and Radiation Biology, Atomic Energy Research Establishment)	2000.05.04	
	農学部	ジャハンギナガル大学 生物科学部 (Faculty of Biological Science, Jahangirnagar University)	2012.03.06	有
	共同獣医学部	バングラデシュ農業大学 Faculty of Veterinary Science, Bangladesh Agricultural University	2021.08.10	
ベトナム	工学部	フエ大学 理学部 (Hue University of Sciences, Hue University)	2017.04.18	有

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
スリランカ	技術経営研究科	ケラニヤ大学 (University of Kelaniya)	2023.02.22	有
	農学部	スリランカ農業局及びペラデニア大学農学研究科 (Postgraduate Institute of Agriculture, University of Peradeniya & Department of Agriculture, Sri Lanka)	2016.03.03	
インド	経済学部	カルカッタ大学 商学・福祉・経営学群 (Faculty of Commerce, Social Welfare and Business Management, University of Calcutta)	2019.02.08	有
		カルカッタ大学 経済学部 (Department of Economics, University of Calcutta)		
フィリピン	共同獣医学部	ダバオ・オリエンタル州立大学 海浜生物環境センター (Regional Integrated Coastal Resource Management Center Region XI (RIC XI) of the Davao Oriental State University)	2019.09.23	有
トルコ	経済学部	カディル・ハス大学 経済・行政・社会科学部 (The Faculty of Economics, Administrative and Social Sciences, Kadir Has University)	2019.06.29	有
ウクライナ	教育学部	イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学 (Ivan Franko National University of Lviv)	2004.11.16	有
イギリス	工学部	ブリストル大学 工学部 (Faculty of Engineering, University of Bristol)	2010.03.01	
ロシア	医学部	カザン医科大学 (Kazan State Medical University)	2012.12.17	
ポルトガル	工学部	新リスボン大学 理工学部 (Faculty of Science and Technology, New University of Lisbon)	2013.08.08	有
スペイン	工学部	カンタブリア大学 産業工学通信学部 (School of Industrial Engineering and Telecommunications, University of Cantabria)	2015.02.25	有
ハンガリー	国際総合科学部	カーロリ大学 (Károli Gáspár University of the Reformed Church in Hungary)	2015.08.18	
オランダ	農学部	ワーゲニンゲン大学 オランダ大遺伝資源センター (Centre for Genetic Resources, the Netherlands (CGN))	2017.04.01	
ケニア	共同獣医学部	ナイロビ大学 獣医学部 (Faculty of Veterinary Medicine, University of Nairobi)	2017.06.30	有
アメリカ合衆国	国際総合科学部	エルジンコミュニティカレッジ (Elgin Community College)	2015.07.28	協定書内に記載有
	医学部	シティ オブ ホープ (City of Hope)	2017.08.01	

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
カナダ	医学部	ニューファンドランドメモリアル大学 (Memorial University of Newfoundland)	2019.07.09	有
アルゼンチン	農学部	ラプラタ大学 理学部 (Faculty of Science, National University of La Plata)	2011.04.27	有
		公立ミシオネス大学 精密自然科学部 (Faculty of Exact, Chemical and Natural Sciences, National University of Misiones)	2018.10.16	
オーストラリア	共同獣医学部	西オーストラリア大学 農学研究科 (The UWA Institute of Agriculture, University of Western Australia)	2015.10.22	
ニュージーランド	農学部	ニュージーランド作物・食物研究所 (New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited)	2008.09.03	
	経済学部	ワイカト大学会計・ファイナンス・経済学部 (School of Accounting, Finance, and Economics, The University of Waikato)	2019.09.20	

4. 海外拠点

本学では海外協定校の協力のもと、外国の教育研究機関との相互交流の推進及び本学の情報発信等を目的とし、6カ国・地域の計6ヶ所に国際連携オフィスを設置している。その内インドネシア、台湾、マレーシア、タイの4つの拠点事務所に現地スタッフを配置し、現地の優秀な学生獲得に向けた広報活動、本学派遣学生の留学支援や同窓会活動の支援等行っている。

また、本学の大学等間国際交流協定校であるガジャマダ大学（インドネシア・ジョグジャカルタ）に、両大学間で特に交流の深い獣医学分野を中心に本学のインドネシアでの拠点として、国際共同事務局を開設している。

① 「山口大学 山東国際連携オフィス」

住所：中国 250100 山東省済南山大南路 27 号 山東大学内

② 「山口大学 バリ国際連携オフィス」

住所：Udayana University

Jl.P.B Sudirman Campus Gedung FISIP 2F Denpasar Bali Indonesia

③ 「山口大学 台湾国際連携オフィス」

住所：台湾 51591 彰化県大村郷学府路 168 号 大葉大学内

④ 「山口大学 クアラルンプール国際連携オフィス」

住所：Malaysia-Japan International Institute of Technology (MJIIT)

Universiti Teknologi Malaysia Kuala Lumpur Campus

Jalan Sultan Yahya Petra, 54100, Kuala Lumpur Malaysia

⑤ 「山口大学 バンコク国際連携オフィス」

住所：Kasetsart University

50 Ngam Wong Wan Rd, Ladyao Chatuchak Bangkok, 10900, Thailand

⑥ 「山口大学 ハノイ国際連携オフィス」

住所：Vietnam National University of Agriculture

Trau Quy-Gia Lam-Ha Noi-Viet Nam

(国際共同事務局)

「山口大学・ガジャマダ大学国際共同事務局」

住所：Universitas Gadjah Mada

Jl. Fauna No.2, Karangmalang, Yogyakarta, Indoensia

5. 本部への海外からの来訪者

来訪日	訪問者	国・地域
2023.05.15	ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ (KCC) 池田恭子国際教育コーディネーター	アメリカ合衆国
2023.06.01	ケント州立大学 Anthony Tosi 准教授	アメリカ合衆国
2023.07.20	スラナリー工科大学農業産業技術部 Neung Teaumroong 学部長ら一行7名	タイ
2023.09.05	西オーストラリア大学 ピーター・バット博士	オーストラリア
2023.09.08	ナイロビ大学 ギタウ教授、獣医学部生	ケニア
2023.09.11	ユニバーシティカレッジ・ロンドン (UCL) 化学科 Alethea Tabor 教授、Tracey Clarke 博士	イギリス
2023.11.29	北アリゾナ大学 学際的グローバル・プログラム シニア・プログラム・コーディネーター Melinda Marquardt 氏	アメリカ合衆国
2023.12.20	ディポネグロ大学 上級講師 アベ・スサント教授	インドネシア
2023.12.22	ナント大学 外国語文化学部 日本語教師 中尾雪絵 先生	フランス
2024.01.05	慶尚国立大学校 奨学生及び教職員 25 名	韓国

6. 本学学長の海外訪問

訪問日程	訪問先・内容（訪問者）	国・地域名
2023.9.12～ 2023.9.17	・ウダヤナ大学 学長表敬訪問 ・インドネシア同窓会 ・在デンパサール日本総領事館 総領事表敬訪問	インドネシア

7. 海外協定校・国際ネットワークとの連携

(1) 山東大学との連携

2023年6月9-12日、山東大学御一行6名（亜太研究所・所長楊魯慧氏、亜太研究所・副所長趙瑛佳氏、当代社会主義研究所・教授蔣銳氏、当代社会主義研究所・講師金淑霞氏、亜太研究所・副所長钟誠氏、亜太研究所地域安全研究センター・センター長王鵬権氏）が本学を来訪し、10日（土）、東アジア研究科において「東アジアの持続可能な発展と新たな交流に向けて－文化・教育・経済」をテーマとした国際シンポジウムを共催した。

(2) 日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）

日本の大学のアフリカでの活動を活性化し、日本とアフリカの大学間連携の強化を目的に発足した「日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）」の2023年度総会（2024年3月14日開催）に国際連携担当副学長補佐・経済学部富本幾文特命教授が出席し、山口大学の国際交流および「大学の世界展開力強化事業」における取組について報告を行った。

(3) JANET（Japan Academic Network in Europe）

欧州で活動展開をしている日本の大学・学術機関等が共同して、欧州現地における活動の連携・潤滑化のための緩やかなつながりを持つために発足した JANET（Japan Academic Network in Europe）であるが、コロナ禍を経て各大学それぞれで欧州との連携・交流が進み、JANET は一定の役割を果たしたことから、2023年11月27日にオンラインで開催された総会において、2023年12月31日をもって JANET は活動を休止し幹事会を解散することが決定されました。

(4) ミャンマー人材育成支援産学官連携ふらっとフォーラム

2023年12月15日にオンラインで情報交換会が開催され、国際交流課の田中課長が出席し、ミャンマーをめぐる情勢などについて情報交換が行われた。

(5) 希平会（日中高等教育交流連絡会）

中国に事務所や拠点等を持つ日本の大学、研究所、政府機関等を中心に組織された希平会の総会および連絡会が2023年9月25日に開催され、本学はオンラインで参加し、各機関からの活動報告および中国の個人情報保護法への対応状況について意見交換が行われた。

(6) JICA・山口大学共催 国際協力 Talk Show

学生に国際協力や途上国について学ぶ機会を提供し、将来の国際協力人材の掘り起こしにつながることを目的として、独立行政法人国際協力機構（JICA）と共催したトークイベントを年間 4 回開催した。イベントには多くの学生が参加し、国際協力について多くの質問が寄せられ、活発な意見交換を行うことができた。

8. 研究者の交流

大学の主要な活動である研究においては、海外でのデータの収集、海外機関との研究交流による研究の加速化と精度の向上は不可欠である。そのため、毎年多くの教員、研究者を海外に派遣し、また山口大学にも多くの海外の大学教員、研究者を受け入れている。2023 年度には、延べ 635 名の教員が海外に派遣され、合計 30 名の外国人研究者を受け入れた。

重点連携大学事業について

本学では、研究分野を主体とした国際連携活動を強化することにより大学の研究レベルの高度化を図ると共に、学術を通じた教育支援及び国際貢献を行うことを目的として、特に本学の研究力向上につながると期待できる海外の大学を重点連携大学として選定し、選定大学との国際連携活動に対して支援を行っている。

各研究グループにおいては、例年、本事業の主目的である「国際共著論文数」の増加を図るため、教職員及び学生の重点連携大学等との相互派遣を実施する等、共同研究及び人材交流を進めてきた。2023 年度に関しては、コロナ禍を経て国際シンポジウムを対面で開催できるようになり、各研究グループでの交流を活発に実施した。このような研究交流活動の成果として発表された国際共著論文は、2023 年度は 23 件であった。

9. 職員の研修

(1) 山口大学海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修

山口大学基金の支援を受け、毎年以下のとおり事務系職員を 1 週間程度海外に派遣し、海外の大学における管理方法、研究・教育支援体制を学ぶほか、職員の外国語能力の向上やグローバルマインドの醸成に努めている。2023 年度において、派遣は行わなかったが、協定校である山東大学から 2 名の事務系職員を受け入れ、国際交流課や総務課などの職員と自身の担当業務について英語で意見交換を行うことができ、国内においても有意義な研修ができた。

なお、SD 研修が開始された 2004 年からの派遣実績は次表のとおりである。

年度	派遣者数	派遣国・地域	派遣大学
2004	2	アメリカ	オクラホマ大学
		イギリス	シェフィールド大学

年度	派遣者数	派遣国・地域	派遣大学
2005	2	アメリカ	ハワイ大学
		イギリス	シェフィールド大学
2006	2	カナダ	リジャイナ大学
		ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学 エアランゲン・ニュルンベルク
2007	2	アメリカ	オクラホマ大学
		オーストラリア	ニューカッスル大学
2008	2	中国	山東大学,香港中文大学
2009	2	中国	山東大学
2010	4	中国	山東大学
		台湾	大葉大学ほか
		インドネシア	ウダヤナ大学
2011	3	中国	山東大学
		インドネシア	ガジャマダ大学
2012	4	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ガジャマダ大学
2013	13	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ウダヤナ大学
		ベトナム	ハノイ農業大学,カントー大学
		タイ	カセサート大学,ラジャマンガラ工科大学
2014	16	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ウダヤナ大学,ガジャマダ大学
		オーストラリア	シドニー工科大学,ニューカッスル大学
		カナダ	リジャイナ大学
		タイ	チェンマイ大学,シーナカリンウィロート大学
		マレーシア	マレーシア工科大学,マレーシア日本国際工科院
2015	13	中国	山東大学
		台湾	大葉大学,東海大学,静宜大学
		タイ	チュロンコン大学,カセサート大学
		マレーシア	マレーシア工科大学,マレーシア国際工科院
		インドネシア	バンドン工科大学,ウダヤナ大学,国際交流基金ジャカルタ日本文化センター,インドネシア大学,ダルマブルサダ大学

年度	派遣者数	派遣国・地域	派遣大学
2015	(13) 再掲	オーストラリア	ニューカッスル大学,シドニー工科大学
		イギリス	ブリストル大学,サリー大学,セントラルランカシャー大学, JSPS ロンドン
		ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学 エアランゲン・ニュルンベルク
2016	9	中国	大連外国語大学,山東大学,APU 上海オフィス
		台湾	大葉大学,国立中興大学,東海大学
		タイ	チェンマイ大学,カセサート大学,シーナカリンウィロート大学, チュラロンコン大学
		インドネシア	インドネシア大学,ガジャマダ大学,ウダヤナ大学, APU ジャカルタオフィス
2017	3	中国	山東大学
		タイ	チェンマイ大学,カセサート大学
2018	2	中国	山東大学
2019	3	中国	山東大学
		イギリス	バース大学,ブリストル大学,セントラルランカシャー大学
2020	※新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため実施なし		
2021			
2022			
2023	派遣無し		

(2) 山口大学業務英語能力向上研修

本学では、外国人留学生及び研究者の生活、教育、研究の支援や、部局等の国際交流を担当できる事務職員の育成を目指し、2010年度から、外国人対応の業務に必要なコミュニケーション能力の習得及び英語能力向上を目指し職員研修を行っている。

本学の第3期中期目標・中期計画に掲げた「TOEIC スコア 800 点相当以上の職員を 5% 以上とする」という数値目標を 2018 年度に達成したことを受け、2022 年度から次の研修段階に進んでいる。コロナ禍が収束して活発になった海外交流活動により、日常業務において海外の大学や研究者・留学生と E メールで業務を行う頻度が高まっていることから、2023 年度は英文 E メールによるコミュニケーション能力の向上を目指し、受講者のレベルに合わせた 2 日間の集中研修および英文 Eメールの通信添削課題研修を実施した。

10. 海外同窓会活動

コロナ禍の影響により 2019 年以來実施が途絶えていた海外同窓会だが、今年度は 3 年ぶりに対面開催することができた。

(1) マレーシア同窓会 (2023.08.08 実施)

マレーシア工科大学マレーシア日本国際工科院 (UTM-MJIIT) の UTM クアラルンプールキャンパスで開催した。多くの卒業生や来賓が出席される中、オンラインによる学長挨拶に始まり、学内の最新動向や教員からのプログラム紹介、卒業生の講演、パネルディスカッションなどを行った。懇親の時間では参加者同士が交流し、盛況のうちに閉会となった。



(2) インドネシア同窓会 (2023.09.15 実施)

インドネシアにあるウダヤナ大学で開催した。谷澤学長が現地で出席し、在デンパサール日本国総領事やウダヤナ大学学術担当副学長らもご臨席され、本学教員によるインドネシアとの教育・研究活動の講演が行われた。パネルディスカッション形式での参加者との質疑応答では、本学卒業生と本学への留学に関心のあるウダヤナ大学生から多くの質問が挙げられ、活発な交流が図られた。



第 2 章 2023 年度の留学生部門の活動

第2章 2023年度の留学生部門の活動

2023年度の留学生総数は428名（2023年5月1日時点）であり、前年度より61名増加した（図1）。地域別ではアジア圏からの留学生数が上位を占めており（図2）、その中でも中国からの留学が最も多い（図3）。

交換留学に関しては、2021年度から、派遣先の新型コロナウイルス感染状況、医療体制等を検証し、長期留学から海外派遣を再開し、2023年度は各部局の短期派遣についても再起されたことから、前年から2倍に増加した。また、増加傾向であり、2023年はコロナ禍前の水準となった。

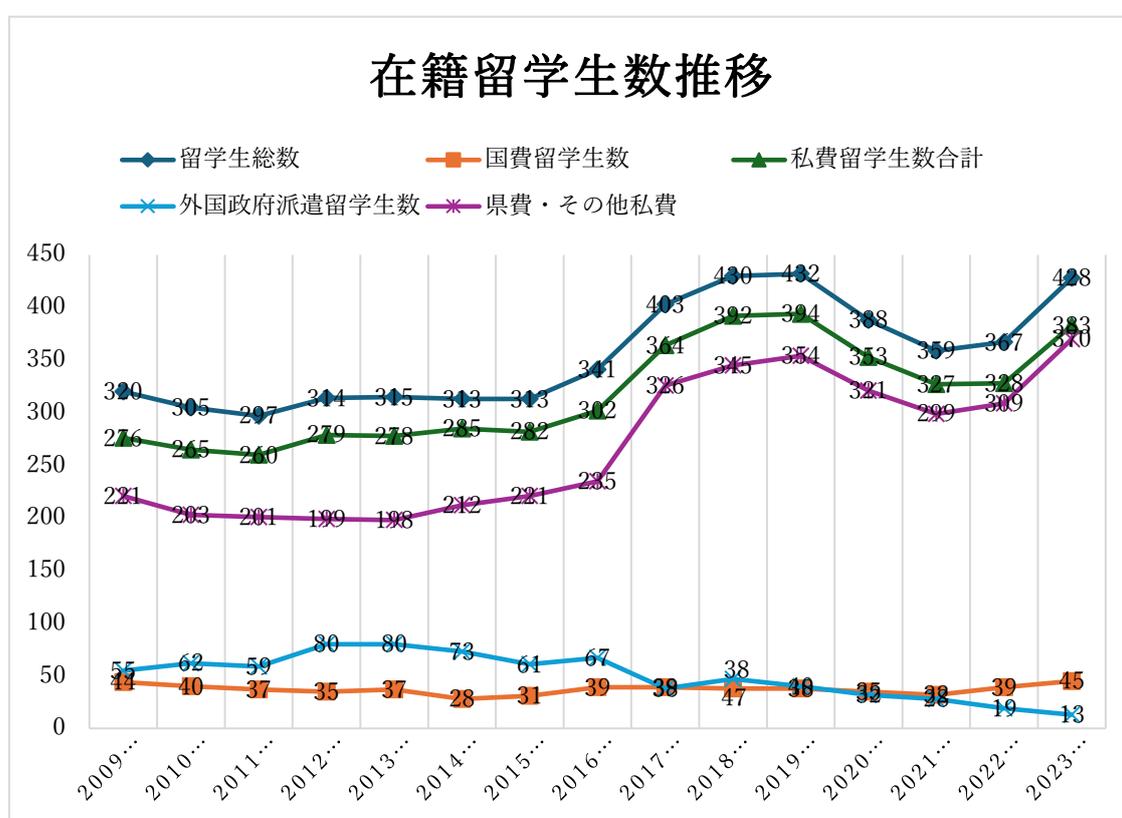


図1 在籍留学生数推移

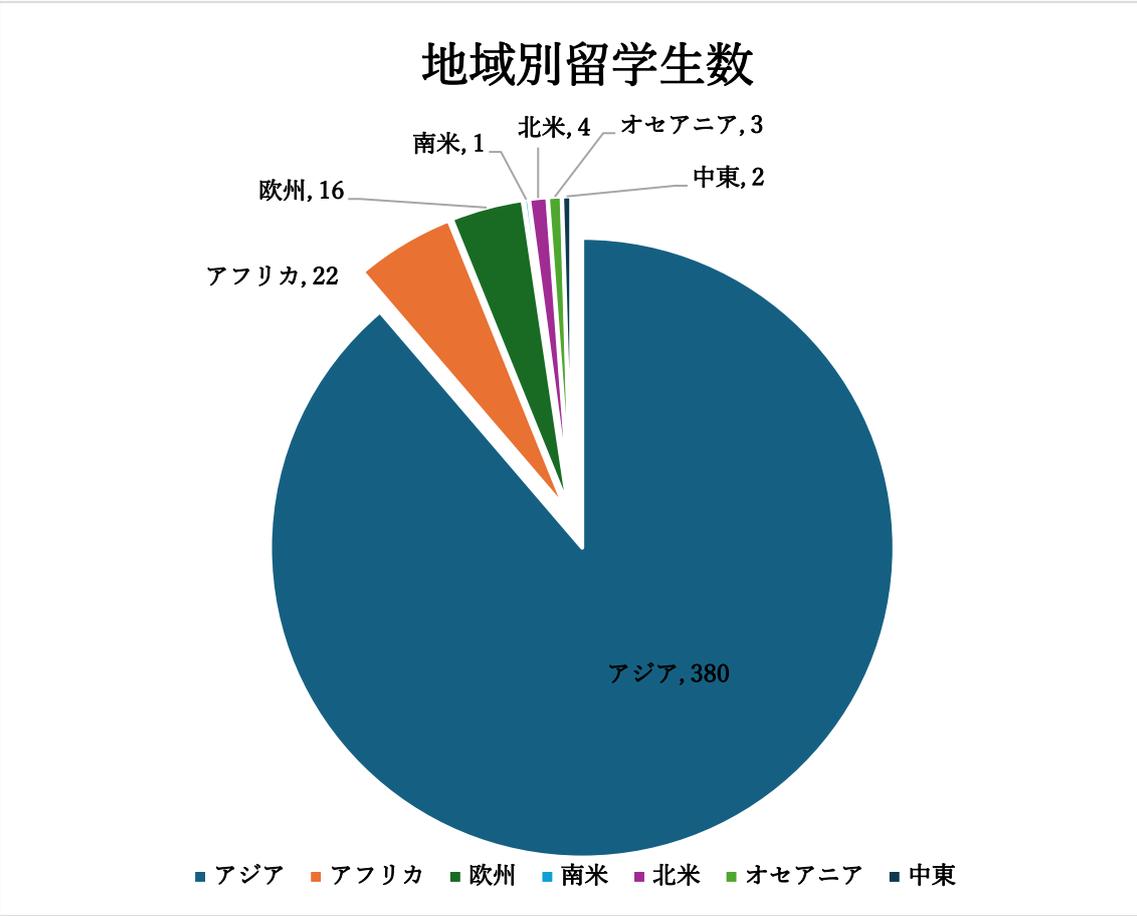


図 2 地域別留学生数

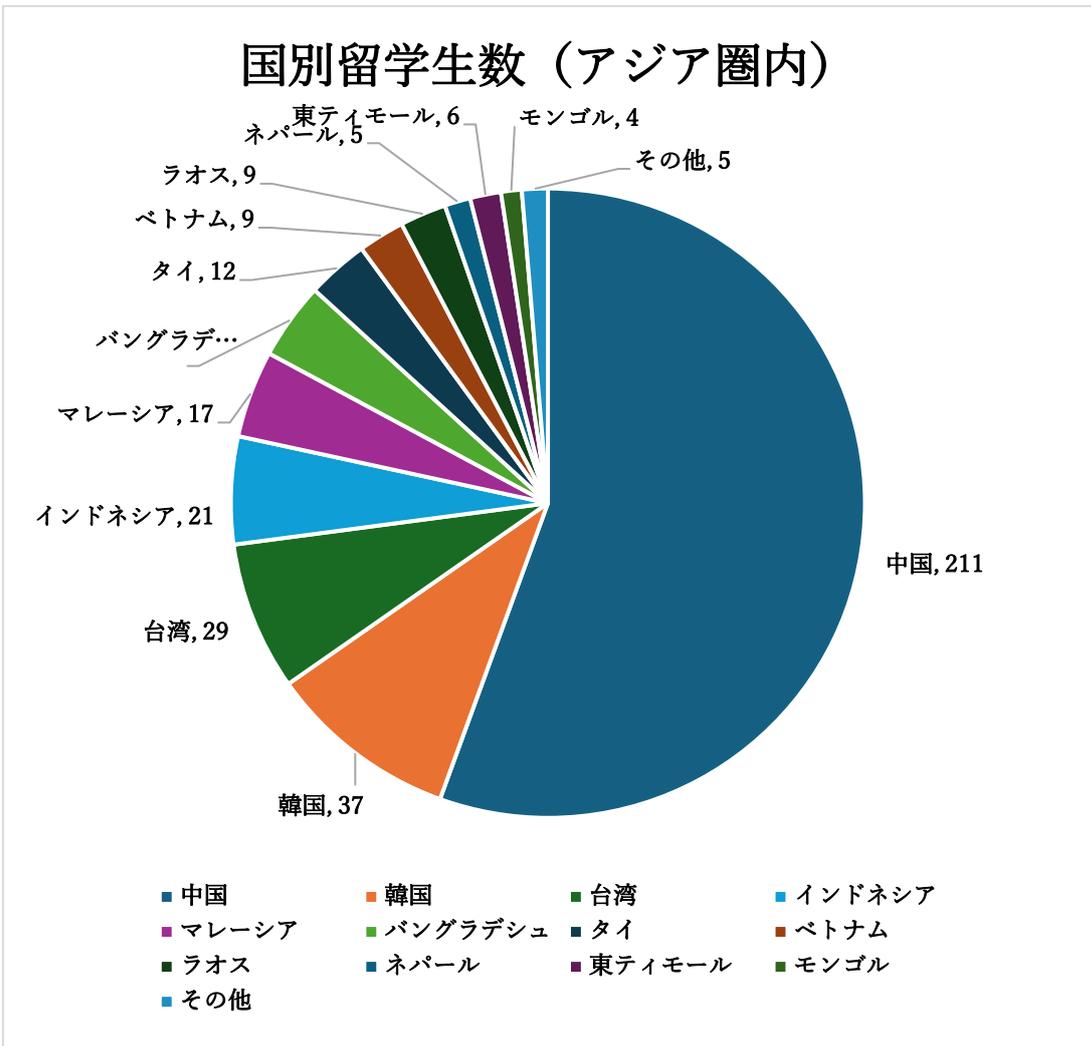


図 3 国別留学生数（アジア圏内）

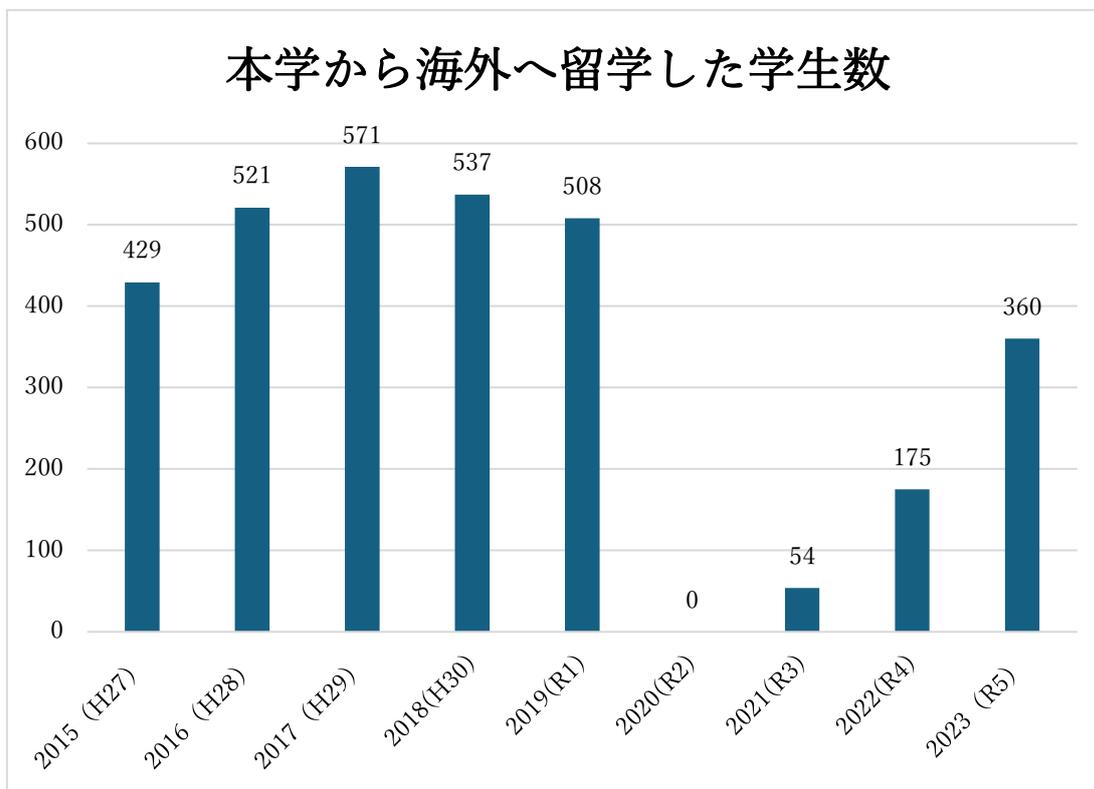


図4 本学から海外へ留学した学生数
(※独立行政法人 日本学生支援機構の「留学生調査」の集計基準に準ずる)

1. 留学促進のための環境整備

(1) IELTS 学内受験の実施

2019年度より、全学生を対象に IELTS の学内受験を開始し、2023年度は10月と11月に実施した。2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から試験実施規模が縮小されていたが、2022年度より年に2度実施となり、2023年度はコロナ後、最も受験者が多く、合計で83名が受験した。

(2) 留学生サポーター活動

2017年度に立ち上げた「留学生サポーター」は、2023年度も前期187名、後期160名と、多くの学生が登録し活動した。2023年度は English café を新たに開始し、日本語未習の大学院生も日本人との交流の機会を提供することにつながった。また、毎年、3月末と9月末に実施している留学生オリエンテーションにおいてはゴミオリエンテーションを実施してきたが、今年度は内容ブラッシュアップし、より分かりやすい内容となったことで留学生からも好評を得た。その他にも異文化交流イベントを計28回実施する等精力的に活動した。

2. 海外学生交流促進のための広報活動

(1) 日本人学生向けの留学フェアの開催

12月4日～12月10日に「留学フェア」を開催した。2023年度は留学経験者による留学体験談発表のほか、2022年度に引き続き、公益社団法人青年海外協力協会と連携し、青年海外協力隊の体験談発表等、幅広く海外体験について、情報提供を行った。また、今年度はエドベシュ・ロラード大学の留学生から大学紹介を行い、欧州留学に関心のある学生にも情報発信を行った。

(2) さんぼう外国人留学生進学相談会への参加

福岡県で実施された株式会社さんぼうが主催する国内進学を検討している外国人向けの進学相談会に出席し、大学の紹介を行った。会場には中国、ネパール、ベトナムから日本語を学びにやってくる外国人留学生等が多く来場し、本学ブースには約50名の来場があった。

3. 留学生センターにおける学生派遣

(1) 海外の協定校が実施する短期語学研修の再開

2023年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から中止されていた海外の協定校の長期休暇中の短期語学研修が一部大学を除き、再開された。2023年度は新型コロナウイルスによる制限も撤廃されたことから、ほぼ例年通り、派遣することができた。

派遣を再開した協定校と派遣人数は以下のとおりである。

ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン 3名（夏期）

ニューカッスル大学 4名（春期）

リジャイナ大学 18名（夏期）

4名（春期）

(2) 海外派遣の推移

新型コロナウイルス蔓延の影響で中止されていた学生派遣については、再開された2021年度に54名、2022年度は175名と増加し、2023年度は360名を派遣し、コロナ禍前の水準に順調に近づいている。2023年度の増加は各部局においても長期休暇等の短期研修を再開されたことが大きく影響している。長期留学に関しては概ねコロナ禍前の水準に戻っており、89名を交換留学を通して派遣した。

第3章 2023年度の学術研究部門の国際交流活動

第3章 2023年度の学術研究部門の国際交流活動

独立行政法人日本学術振興会助成

1. 論文博士号取得希望者に対する支援事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援する事業。

- 【研究課題】 タイのボルボックス目藻類のゲノム系統解析: 有性生殖の進化と多様性の解明
- 【研究期間】 令和2022年4月1日～令和2025年3月31日
- 【山口大学実施部局】 大学院創成科学研究科 (理学系)
- 【山口大学担当教員】 三角 修己 (教授)
- 【相手方参加者】 Wirawan Heman (講師)
- 【相手方機関名(国・地域名)] カーラシン大学 (タイ)

2. 二国間交流事業 (共同研究・セミナー)

独立行政法人日本学術振興会が実施する、個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チームの持続的ネットワーク形成を目指し、我が国の大学等の優れた研究者(若手研究者を含む)が相手国の研究者と協力して行う共同研究・セミナーの実施に要する経費を支援する事業。

- 【研究課題】 泥炭堆積物の輸送力学の確立
Establishment of the coastal peat sediment dynamics
- 【研究期間】 2020年4月1日～2023年3月31日
- 【山口大学実施部局】 大学院創成科学研究科 (工学系)
- 【山口大学担当教員】 山本 浩一 (教授)
- 【相手方参加者】 Dr. Eng. Sigit Sutikno
- 【相手方機関名(国・地域名)] Faculty of Engineering, University of Riau (インドネシア)

-
- 【研究課題】 細胞内寄生菌の感染機構におけるサーチュインの役割
The role of sirtuins in infection mechanism of intracellular bacteria
 - 【研究期間】 2021年4月1日～2023年3月31日
 - 【山口大学実施部局】 共同獣医学部
 - 【山口大学担当教員】 度会 雅久 (教授)
 - 【相手方参加者】 Professor, Suk Kim
 - 【相手方機関名(国・地域名)] Gyeongsang National University (韓国)
-

- 【セミナー名】 プレシジョンメディシンと健康科学における人工知能とビッグデータアプローチ
Artificial intelligence and big data approaches in precision medicine and health science
- 【セミナー開催期間】 2022年12月3日～2022年12月4日
- 【山口大学実施部局】 大学院医学系研究科
- 【山口大学担当教員】 浅井 義之（教授）
- 【相手方参加者】 BARILLOT Emmanuel
- 【相手方機関名(国・地域名)】 Institut Curie - INSERM - PSL Research University（フランス）

3. 外国人研究者招へい事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、優秀な諸外国の研究者に対し、我が国の大学研究機関等において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業。

- 【研究課題】 酸化シグナルをになう活性カルボニル種の植物細胞での受容機構の解明
- 【研究期間】 2021年11月28日～2023年3月2日
- 【山口大学実施部局】 大学研究推進機構
- 【山口大学担当教員】 真野 純一（教授）
- 【相手方参加者】 Md. Sanaullah Biswas（准教授）
- 【相手方機関名(国・地域名)】 バンガバンドー・シェイク・ムジブル・ラーマン農業大学（バングラデシュ）

-
- 【研究課題】 Water Supply of the Malaysian Rural Area During Disaster and Climate Change Countermeasures
- 【研究期間】 2022年10月3日～2024年10月2日
- 【山口大学実施部局】 山口大学応用衛生リモートセンシング研究センター
- 【山口大学担当教員】 大澤 高浩（教授）
- 【相手方参加者】 Husniyah Binti Mahmud
- 【相手方機関名(国・地域名)】（マレーシア）

-
- 【研究課題】 A Comparative Study of Japanese Chinese Textbooks and Chinese Japanese Textbooks
- 【研究期間】 2022年7月1日～2023年8月31日
- 【山口大学実施部局】 人文学部・人文科学研究科
- 【山口大学担当教員】 更科 慎一（准教授）
- 【相手方参加者】 Wang Jun（講師）
- 【相手方機関名(国・地域名)】 浙江師範大学（中国）

4. 国際共同研究事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、学術研究活動のグローバルな展開に対応するために、海外の学術振興機関との連携のもと、我が国の大学等の優れた研究者が海外の研究者と協力して行う共同研究を推進し、若手研究者の研鑽機会の充実を通じた育成を目的とした事業。

- 【 研 究 課 題 】 神経疾患への血液脳関門破綻の影響
The contribution of blood-brain barrier dysfunction to neurological disorders
- 【 研 究 期 間 】 2023年1月1日～2025年12月31日
- 【山口大学実施部局】 医学部（神経・筋難病治療学講座）
- 【山口大学担当教員】 西原 秀昭（助教）
- 【相手方参加者】 Britta Engelhardt（所長・免疫学教授）
- 【相手方機関名(国・地域名)】 Theodor Kocher Institute, University of Bern（スイス）

第 4 章 2023 年度の各部局での国際交流活動

第4章 2023年度の各部局での国際交流活動

人文学部

国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- 【主催】第4回山口大学人文学部歴史学コース考古学分野講演会「ユーラシア草原地帯の考古学と金属遺物」（2024.1.19、参加者数：約40名） ※講演者のうち1名は、台湾・中央研究院地球科学研究所からの招聘及びご登壇。ただし学内外向けに日本語で実施した。
- 【国際会議報告】アジア鑄造技術史学会第16回大会（日本・奈良）／The Society for the History of Asian Casting Technology : Annual Meeting 2023 at Nara、鈴木舞・三船温尚「西周金文の鑄造技法—3D ポリゴンデータを用いた黒川古文化研究所所蔵小克鼎の分析—」（2023.8.19、参加者数：約60名） ※2023年度は日本開催のため、日本語で発表
- 【国際会議報告】アジア鑄造技術史学会第16回大会（日本・奈良）／The Society for the History of Asian Casting Technology : Annual Meeting 2023 at Nara、鈴木舞・飯塚義之「横浜ユーラシア文化館所蔵金属製馬具装飾の研究」（2023.8.20、参加者数：約60名） ※2023年度は日本開催のため、日本語で発表
- 【国際会議報告】台湾・国立政治大学中文系深波學術講座 出土文獻與經典導讀（二十四）、鈴木舞「從技術史的視角來看的商周青銅器鑄造技術復元：以銘文製作法為中心」（2023.12.7、参加者数：約20名）
- 【国際シンポジウム報告】科学研究費基盤研究B「三角縁神獸鏡の製作地解明にむけたミュオンビームによる非破壊成分分析とその検証」公開国際シンポジウム「青銅器研究の新展開」、鈴木舞「殷周青銅器の三次元観察と技術復元—シリコン製レプリカを用いた殷周青銅器銘文の製作痕跡観察—」（2024.2.3、参加者数：約20名）
※日本開催のため、日本語で発表

国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- 台湾・国立政治大学文學院での国際漢學碩博士專班《日本視野下的中國考古學及古文字》へ学生を派遣（2023.12.2-7、参加学生数：2名）
- 国際シンポジウム「移民ネットワークとメディア —紙媒体からサイバー空間まで—」
2024年3月16日 北海道大学メディア・ツーリズムセンター
基調講演 小林宏至「現代漢族社会における親族組織とサイバー空間」
パネリスト
山口大学：小林宏至
北海道大学：Paichadze Svetlana
韓国、漢陽大学：李 俊榮
キルギス、キルギス共和国日本人材開発センター：Akmatbekova Gulzat

その他

- 【海外大学での集中講義】台湾・国立政治大學文學院國際漢學碩博士專班《日本視野下的中國考古學及古文字》（2023.12.4-6（計3日間）、受講者数：10名） ※中国文学系大学院生を対象とした講義
- 【海外研究者との共同研究発表】日本中国考古学会 2023 年度大会（九州大学）、松本圭太（九州大学）・飯塚義之（台湾・中央研究院地球科學研究所）・鈴木舞（山口大学）「島根県立古代出雲歴史博物館所蔵中国北方系青銅器の金属化学組成」（2023.12.17、参加者数：約 50 名）
- 【海外研究者との共同研究発表】日本中国考古学会 2023 年度大会（九州大学）、鈴木舞・飯塚義之「契丹馬具の基礎的研究—製作技法と金属成分からの検討—」（2023.12.17、参加者数：約 50 名）
- 【海外研究者との共同研究発表】第 23 回北アジア調査研究報告会（東京大学）、鈴木舞・飯塚義之「オホーツク文化に見られる大陸系の銅器・青銅器—金属成分と製作技術の比較—」（2024.3.2、参加者数：約 30 名）
- 【海外研究者との共同研究発表】遼金西夏史研究会第 24 回研究大会（龍谷大学）、鈴木舞・飯塚義之「日本所蔵コレクション資料からみる契丹の金工技術—器物形態・製作技術・金属成分からの検討—」（2024.3.9、参加者数：約 40 名）
- 「第六屆國際《尚書》學學術研討會」への参加(2023/08/14)（中国・鄒平市）、伊藤裕水
- 「鄒平新聞」（中国・鄒平市）へのインタビュー出演(2023/08/14)（<https://mp.weixin.qq.com/s/M4t43qixUfLOFHKdIH56g>）、伊藤裕水
- 「第六屆國際東亞文獻研究學會和學術大會暨 2023 韓國中文學會春季學術大會：國際東亞文獻研究高端化研討會-以元代文獻為中心」への参加(2023/08/26)（韓国・忠州）、伊藤裕水
- 「南京論壇 2023」への参加（2023/09/16）（中国・南京大學）、伊藤裕水
- 国際共著本において分担執筆、小林宏至
山藤夏郎、林承緯、柳瀬善治、陳志文、楊素霞、榊祐一、羅曉勤編『日本學指南：100 本研究日本人文科學領域主題的經典專書』五南圖書出版（総ページ数 417）2023 年 7 月、ISBN: 9786263430976
小林の執筆担当範囲
24. 菅豊，《新的「野」學：為了連結知識生產與社會實踐》，2013 年（小林宏至） pp.91-93
27. 安室知，《都市與農的民俗：關於農的文化資源化》，2020 年（小林宏至） pp.100-102
- アメリカ言語学会主催 2023 Linguistic Institute, Session 2 に参加（於：米国・マサチューセッツ大学アマースト校、2023.7.1-16、参加者数：約 200 名）、太田 聡

教育学部

学生国際交流プログラムの実施（オンラインを含む）

- 国際理解教育演習の授業で10週間にわたりドイツ、スペイン、ポーランド、ブルガリアの教員養成大学の学生とのSDGsをテーマとしたグループワークによる国際アンケート調査と成果発表会をオンライン（テキストメッセージとZoomミーティング）により実施した。（2023.11.10-2024.2.9、参加学生数：4名）
- 異文化学習論の授業で1か月半にわたり台湾玄奘大学の学生とグループワークを行い、3回のオンラインミーティングを実施した。（2023.4.20-2023.6.8 参加学生20人）
- 国際体験実習でラオスとベトナムへの海外研修旅行を実施し、現地の大学生とのグループワークや現地の小学校、中学校での日本語・日本文化紹介を行った。（2024.3.5-2024.3.16 参加学生24人）

国内で国際感覚を育成する取組の実施

- ホーチミン日本人学校の教員によるオンライン学校見学会を実施（2023.5.24、参加学生数：6名）
- 山口農業高校の家庭科の授業で台湾の大学生をゲストに招いたオンライン国際交流を教育学部生が企画・実施（2023.12.12、参加者：大学生8名、高校生40名）
- 附属山口小の家庭科の授業で中国の大学生をゲストに招いたオンライン国際交流を教育学部生が企画・実施（2023.12.19、参加者：大学生4名、小学生35名）
- ホンジュラス在住のJICA協力隊員（家庭科教員）と大学をオンラインで接続し、「家庭科教員による国際貢献」をテーマとした勉強会を教育学部生が企画・実施（2024.1.16、参加者：大学生7名）
- ベトナム在住のJICA協力隊員と山口農業高校をオンラインで接続し、「ファストファッションと環境問題」をテーマとした授業を教育学部生が企画・実施（2024.2.16、参加者：大学生7名、高校生70人、家庭科教員3人）
- 国際理解教育概説の授業で、インドネシアのスブラスマレット大学教育学部教授のスラムト氏によるインドネシアと日本の文化比較に関する講義を実施した。（2023.11.26 参加学生8人）
- 受託事業で取り組んでいる首里城復元「向拝奥の彫刻物」粘土原型製作アシスタント2024年2月1日～13日（8日間）大連理工大学大学院生（交換留学生）1名、日本の文化財復元の取り組みを学習してもらった。

その他

- 電子ジャーナル『JEAJ(Journal of East Asian Identities) Vol.9』 2024年3月31日WEB公開 台湾・淡江大学と本校の共同運用で9年目のWEB刊行。

経済学部

国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- 2024年1月15日（月）から同年1月26日（金）までの間で10日間、2023年度 JICA 青年研修「モルディブ・ヨルダン／地方行政・地域開発コース」を実施した。モルディブ及びヨルダンの若手行政官10名が参加した。
- 寄付講義（ユーラシア財団）により、2023年10月より12月までに、外国人講師4名（バングラデシュ、ラオス、ネパール、インド、）を招聘し、学部および大学院にて対面またはリモートで講義を実施した。

学生国際交流プログラムの実施（オンラインを含む）

- 観光政策学科・海外プロジェクト演習・台湾実地研修：台湾銘傳大学国際企業学部との双方向交流（2023.9.13-9.20、参加学生数：9名）
- 観光政策学科・海外プロジェクト演習・ハンガリー実地研修：カーロリ・ゲーシュパー・カルビン派大学日本学部との双方向交流（2024.2.09-2.19、参加学生数：10名）
- 2023年8月～9月に、山根先生のフィリピン英語研修（夏）で30名参加。
- 2024年2月～3月に、山根先生のフィリピン英語研修（冬）で29名参加。
- 長期留学（交換留学）2名
 - 台湾 高雄餐旅大学へ 2023年9月から2024年1月まで 1名参加
 - オーストラリア シドニー工科大学へ 2023年7月から1年間 1名参加
- 休学しての留学 7名
 - 2023年2月から1年間、3年生1名が中国 復旦大学へ留学。
 - 2022年9月から2年間、3年生1名がカナダ SELC へ留学中。
 - 2022年9月から1年間、4年生1名がオーストラリア ELSIS へ語学留学
 - 2023年10月から1年間、4年生1名がフランス Istituto Marangoni へ留学
 - 2023年4月から12月まで、4年生1名がドイツへ海外インターンシップ参加。
 - 2023年2月から1年間、3年生1人がオーストラリア IH へ語学留学。
 - 2023年10月から1年間、3年生1名がカナダへ語学研修及び海外インターンシップ参加。

理学部

国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- 国際研究集会 Black Hole and Gravitational Waves の主催（2023.9.4-9.8, APCTP（韓国）, 参加人数：24名, 齊藤遼）
- 国際研究集会 UVSOR-III + MAX IV International Workshop: Frontier of Soft X-ray Spectroscopy for Chemical Processes in Solutions の主催（2023.10.2-10.4, 日本, 参加人数：約60名, 堀川裕加）

国内で国際感覚を育成する取組の実施

- Satobaev 大学地質学部で学生を対象とした中央アジアのテクトニクスに関する講演 "Comprehensive tectonic evolutions of entire southern part of Central Asian Orogenic Belt" (2023.11.7, カザフスタン, 大和田正明; 聴衆の人数: 約 40 名)

その他

- キルギス科学アカデミー (キルギス) におけるテクトニクス部門長と中央アジアの地質一般について情報交換 (2023.11.9, 大和田正明, 参加人数: 約 15 名 (日本, モンゴル))
- 資源地質アカデミー (ウズベキスタン) の所長との中央アジアの地質一般についての情報交換 (2023.11.12, 大和田正明, 参加人数: 6 名 (日本, モンゴル))
- 同済大学 (中国) の研究者とその学生との共同研究の打ち合わせ (2023 年度・継続中, 齊藤遼)
- Trakya University (トルコ) の研究者と加群論に関する協同研究 (2023 年度・継続中, 倉富要輔)
- モンゴル科学技術大学 (モンゴル) で資源地質に関する打ち合わせ (2023.11.5, 大和田正明, 参加人数: 4 名 (日本, モンゴル))
- 国際会議における学生を伴う研究成果報告 (鈴木康孝)
 - Fourth International Conference on Materials Science (ICMS2024) (Tripura University (インド), 2024.1.31-2/2)
 - The fourteenth Japan-Finland joint Symposium on Optics in Engineering (浜松, 2023.8.28-9.1)
 - EuroClay 2023 (Villa Romanazzi Carducci Conference Centre (イタリア), 2024.7.24-7/27)

医学部

国際会議・講演会等 (オンラインを含む)

- 多階層システム医学シンポジウム (2023.12.4, 参加者数: 50 名)
Lausanne University, Prof. Alessandro E.P. Villa 招聘・シンポジウム基調講演
- 論文執筆に関する研修会「International publishing」(2023.9.29, 参加者数 27 名)
講師: Teresa Stone RN RMN BA MHM PhD FACMHN, Visiting Professor, Yamaguchi University

学生国際交流プログラムの実施 (オンラインを含む)

- アジア・太平洋地域看護・健康科学リーダー育成連携 APAHL フォーラム(香港大学) (2023.11.1-4, 参加教員・学生数: 約 60 名)
- 医学科自己開発コースにおいて、バース大学 (英国) に 3 名、City of Hope (米国) 及びデューク大学に各 2 名、LMU München (ドイツ) に 1 名が留学し、研究・社会活動を行った。(2023.6~11 月、合計参加学生数: 8 名)

- チェンマイ大学との学生交流プログラムで3名の留学生を受入（2023.8.21～9.1、参加学生数：約30名）

国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- ローザンヌ大学 Neuroheuristic Research Group との研究ミーティング（年3回。参加学生数：2名）
- バース大学（英国）からの医学部医学科短期研究プログラム：バース大学（英国）から2名の学生をシステムズ再生・病態医化学講座で受入（2022.9.15-2023.9.15、参加学生数：2名）

その他

- ローザンヌ大学との部局間連携を見据え Prof. Alessandro E. P. Villa と医学部長・研究科長 篠田教授との面談を実施した。

工学部

国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- International Symposium on Peat Mass Movement and Peat-derived Carbon Transport in Peatland（2023.9.9、参加者：154名）
- 第13回 Choshu-London シンポジウム（2023.9.12、参加者：40名）
- 持続可能な環境のための国際シンポジウム（2023.11.15 及び 2024.1.29、参加者：200名）
- 7th Human resource development and Space data utilization for Disaster symposium（2024.1.11、参加者：72名）
- 7th Symposium on Green and Smart Technologies（2024.3.6-3.8、参加者：110名）
- 2024 the 12th International Conference on Information and Education Technology (ICIET)（2024.3.18-3.20、参加者：150名）
- The 3rd International Alumni Online Seminar on Disaster Prevention and Environment（2024.3.23、参加者：50名）

学生国際交流プログラムの実施（オンラインを含む）

- Summer Program for Innovative Engineering Design (SP!ED) 2023（2023.8.21-28、参加者：94名（うち山口大学：16名））
- グリーン社会実現に貢献するバイオマス由来の再生可能エネルギーに関する国際シンポジウム（2023.8.31、参加者：15名（うち参加学生数11名：山口大学4名、カセサート大学2名、ラチャモンコン工科大学5名））
- ICIARE&CEDC2023（2023.12.22-26、参加者：117名（うち山口大学：36名））
- 忠北大学との連携教育プログラム（2024.1.12-13、参加者：43名（うち山口大学：20名））

- さくらサイエンスプログラム（参加者合計：16名）
 - リモートセンシングとAIによる先端情報処理技術に関する学習と体験（2023.10.8-10.14、参加者：6名（うち参加学生数：4名））
 - 熱帯泥炭地での飲料水・生活用水確保のための水処理技術研修（2024.2.26-3.6、参加者：10名）
- YUSSプログラム（参加者合計：8名）
 - ブラヴィジャヤ大学工学部水資源工学科学学生短期研修（2023.7.9-7.22、参加者：6名）
 - 山口大学ーシーナカリンウィロート大学遺伝子工学技術プログラム（2023.12.15-2024.1.14、参加者：2名）
- 新長州五傑：グローバルエンジニアを育成する海外語学研修（参加学生数合計：29名）
 - イギリス・ユニバーシティカレッジロンドン（2023.8.23-9.8 参加学生数：12名）
 - イギリス・シェフィールド大学（2023.8.6-9.2 参加学生数：1名、2024.2.12-3.16 参加学生数：1名、2024.2.19-3.16 参加学生数：1名 参加学生数合計：3名）
 - オーストラリア・ウーロンゴン大学（2023.8.21-9.15 参加学生数4名、2023.8.21-9.29 参加学生数：3名、2024.2.26-3.29 参加学生数：1名 参加学生数合計：8名）
 - ニュージーランド・オークランド大学（2024.2.12-3.8 参加学生数：1名、2024.2.12-4.5 参加学生数：2名 参加学生数合計：3名）
 - ベトナム・東部国際大学（2023.8.7-8.31 参加学生数：3名）
- SDGs 2030年に向けたビジョンを描くグローバルエンジニアを育成する海外技術研修（参加学生数合計：16名）
 - インドネシア・ブンカリス高専（2023.9.4-9.12 参加学生数：5名）
 - タイ・カセサート大学（2023.8.17-9.22 参加学生数：4名、2023.12.17-12.22 参加学生数：3名 参加学生数合計7名）
 - タイ・チュラロンコン大学（2023.8.22-9.28 参加学生数：1名）
 - タイ・シーナカリン・ウィロート大学（2023.8.23-9.28 参加学生数：1名）
 - タイ・コンケン大学（2023.12.25-2024.1.22 参加学生数：1名）
 - シンガポール・五洋建設株式会社シンガポールオフィス（2023.8.7-8.16 参加学生数：1名）

国内で国際感覚を育成する取組の実施

- 国際会議 International Congress on Membrane and Membrane Processes 2023に参加（2023.7.9-7.14、参加学生数：6名）
- イギリス・シェフィールド大学、オープンキャンパスメタバース留学体験（2023.8.4

参加者：12名)

- メタバース留学紹介と VR 体験 (AirPano を利用) (2023.11.18 参加者：40名)
- JST さくらサイエンスプログラムのインドネシアリアウ大学・ブンカリス高専からの招へいプログラムにおける協力者および聴講者として学生が参加 (2024.2.26-3.6、参加学生数：11名)
- 日本学術振興会令和 5 年度外国人研究者招へい事業 (短期) によってカナダ INRS のソニアアイサ教授を研究室に招へいし学術交流を行った。(2023.12.26-2024.2.23、参加学生数：8名)

その他

- 学術交流協定校である北アリゾナ大学 (米国) との短期海外研修スタートアッププログラム開発 (最終調整中)

農学部

国際会議・講演会等 (オンラインを含む)

- 第 20 回 Young Scientist Seminar (YSS) (オンライン, 2023.11.18-19, 参加 (若手研究者含む) : 169 名)
- 8th Priority University 2023 国際シンポジウム「Biotech meets AI: Transforming Agriculture through Innovative Technologies」(チュラロンコン大学 (タイ), 2024.1.23, 約 40 名参加, 農学部からは 2 名が講演)

学生国際交流プログラムの実施 (オンラインを含む)

- 学生支援機構 (JASSO) 海外留学支援制度
派遣学生 6 名 (約 1 ヶ月間), 受入学生 10 名 (タイ 7 名, インドネシア 2 名, ベトナム 1 名, 約 2 ヶ月間)
(私費で 1 名の派遣学生も参加 (約 1 ヶ月間))

国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- 国際連携農学生命科学専攻ジョイント・ディグリー・プログラム (R5 年度: 山口大学学生 2 名, タイ・カセサート大学学生 5 名)
本学学生 2 名が 8 ~ 10 月にタイへ渡航, カセサート大学に滞在
カセサート大学生 1 名が 11 ~ 2 月, 本学に滞在
大学院の教育課程であるため, 交流とは少し趣が異なるかもしれない。しかし, 各大学での滞在中は受け入れ教員の研究室に所属し研究活動を行った。それを通して交流ができた。
- JASSO 海外留学支援制度でタイ・チェンマイ大学に滞在中の大学院学生 (1 名) とともにチェンマイ大学農学部学部長, 副学部長ならびに指導教員と面談し共同研究の方向性を話し合った。

その他

本学農学部で博士号を取得し帰国した Koudkeo Phommachan 博士と面談し、ラオス・ビエンチャンのラオス国立大学で研究学術交流を行った。

学生の派遣と受入予定：

【JASSO（協定派遣）】7名

【JASSO（協定受入）】7名（不採択）

【JASSO（ジョイントディグリー，派遣）】大学院生2名

【ジョイントディグリー，受け入れ】大学院生2名

(SDGs への取り組み)

- ・フードバンクの研究
- ・地球温暖化に対応した新しい野菜品種の開発
- ・水欠乏，過湿，高温などの環境ストレスに対する植物の耐性機構に関する研究
- ・サンゴの白化現象メカニズム究明と大規模白化に対する生物化学的防止・救済に関する研究
- ・耐熱性微生物の耐熱機構の解析と利用
- ・2013年から実施している「昆虫食に親しむ会」を開催し，教職員，学生，留学生ら50名以上が集い，様々な昆虫食を試食した。
- ・ラオス・タイを訪問し，SDGsに貢献する昆虫食について，その価格・種類などを調べるため，市場18カ所の調査を行った。

共同獣医学部

国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- ・ JICA 草の根事業 第9回月例セミナー（2023.4.28、参加者数：約79名）
- ・ JICA 草の根事業 第10回月例セミナー（2023.5.26、参加者数：約59名）
- ・ JICA 草の根事業 第11回月例セミナー（2023.6.26、参加者数：約95名）
- ・ JICA 草の根事業 第12回月例セミナー（2023.7.28、参加者数：約37名）
- ・ JICA 草の根事業 第13回月例セミナー（2023.8.25、参加者数：約50名）
- ・ JICA 草の根事業 第14回月例セミナー（2023.9.29、参加者数：約30名）
- ・ JICA 草の根事業 第15回月例セミナー（2023.10.27、参加者数：約35名）
- ・ JICA 草の根事業 第16回月例セミナー（2023.11.24、参加者数：約30名）
- ・ JICA 草の根事業 第17回月例セミナー（2023.12.22、参加者数：約45名）
- ・ JICA 草の根事業 第18回月例セミナー（2024.1.26、参加者数：約25名）
- ・ JICA 草の根事業 第19回月例セミナー（2024.2.22、参加者数：約26名）
- ・ JICA 草の根事業 2大学交流セミナー（2024.3.1、参加者数：約60名）

学生国際交流プログラムの実施（オンラインを含む）

- 【世界展開力強化事業：オンライン講義実施】山口大学、ナイロビ大学の教員による講義（獣医国際感染症学、熱帯獣医学Ⅰ）を開講。山口大学生 31 名、ナイロビ大学生 4 名が履修登録。（2023 年通年集中科目）
- 【世界展開力強化事業：受入】ナイロビ大学獣医学部（ケニア）より学部生 4 名を受入れ、現地実習を実施。内容：日本語授業、山口市周辺見学、学外機関での実習、動物感染症総合実習 など（2023.9.4～9.15）
- 【世界展開力強化事業：派遣】共同獣医学部より学部生 6 名をケニアへ派遣。ナイロビ大学での現地実習や関連施設を訪問。内容：大学動物病院での往診参加、学内施設見学、ケニア中央医学研究所（KEMRI）、長崎大学熱帯医学研究所ケニア拠点（NUITM）、JICA ケニア事務所、International Livestock Research Institute（ILRI）、Kenya Animal Genetics Resources Centre(KAGRC)など（2023.9.18～9.29）
- 【世界展開力強化事業】学生派遣・受入報告会（2023.11.30、発表者数：ナイロビ大学生 4 名と共同獣医学部学部生 6 名、山口大学は対面・ナイロビ大学とはオンライン接続で実施）
- 【世界展開力強化事業：派遣】共同獣医学研究科より大学院生 3 名をケニアへ派遣。NUITM にて長崎大学熱帯医学研究所との共同研究を実施。内容：共同研究など（2024.1.28～2.17）
- 【アジア地域の国際獣医師ネットワーク充実に向けた学生派遣プログラム】共同獣医学部より 2 名を台湾の中興大学へ派遣。現地での授業や実習を受講（2023.8.7～2023.8.18）
- 【YUSS プログラム：受入】台湾の中興大学から学部生 1 名受入（2023.9.4～2023.9.15）、タイのカセサート大学から学部生 2 名を受入（2023.9.1～2023.9.30）。研究室活動や動物感染症総合実習を受講。

国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- 【世界展開力強化事業：アフリカフェアの開催】（2023 年度 5 回開催）アフリカとの連携を全学的に広げ、学生、教員がアフリカへの興味、関心を持つような情報提供を目的として、2023 年 3 月第 1 回から引き続き定期的開催。
 - 第 2 回 4 月 14 日（金）Samuel Nyampong（ガーナ）共同獣医学研究科 博士後期課程 2 年
 - 第 3 回 7 月 5 日（水）Hany A. El-Shemy（エジプト）カイロ大学農学部生化学科教授
 - 第 4 回 8 月 25 日（金）大学院共同獣医研究科の「獣医学共通セミナー」の 1 コマで、本学教授とケニアの専門家 2 名による講演を実施。北西功一（ガーナ、タンザニア、ウガンダ、カメルーン）国際総合科学部教授「アフリカのバナナの多様性」、Dr. Mercy Y. Akinyi（ケニア）霊長類研究所「霊長類と寄生虫：人間と野生動物の接点における事例研究」、Dr. Francis Gakuya

(ケニア) 野生動物研究研修所「アフリカにおける野生動物由来の新たな人獣共通感染症」

- 第5回 10月19日(木) Niyonzima Yvan Bienvenu (ルワンダ) 共同獣医学研究科博士後期課程1年
- 第6回 1月25日(木) Camara I Bountouraby、Toure Siaka (ギニア) 創成科学研究科博士前期課程1年
- ホームカミングデー 2023.10.28 「海外交流紹介企画」において、インドネシア出身の学生2名、ガーナ出身の学生1名、日本人学生1名から母国の紹介や留学経験について講演。参加者20名。

その他

【表敬訪問】

- タイ カセサート大学獣医学部長が共同獣医学部へ来訪 2023.4.26
- インドネシア IPB 大学へ学部長ほか2名が訪問及び意見交換 2023.11.22

【共同獣医学部】

- 大学間協定における特別聴講学生の受入
 - 台湾 (中興大学) 1名 令和5年4月1日～令和5年9月30日
- 大学間協定における特別聴講学生の派遣
 - スペイン (サラゴサ大学) 1名 令和5年9月1日～令和6年7月3日

【共同獣医学研究科】

- 国費外国人留学生受入れ
 - ケニア 3名 (大学推薦 (特別枠)) 令和5年4月1日～
- Agri-Net プログラム(JICA) 受入れ
 - ルワンダ 1名 令和5年4月1日～ *学部研究生からの進学
- 私費外国人留学生受入れ
 - インドネシア 1名 令和5年4月1日～

【国際交流協定】

- 大学間 国際交流協定及び学生交流に関する附属書 国立嘉義大学 締結 2023.12.12
 - ※共同獣医学部も交流予定学部として参画
- 学部間 国際交流協定 アイルランガ大学獣医学部 更新 2023.7.13
- 学部間 学生交流に関する附属書 ガジャマダ大学獣医学部 更新 2023.12.22

【外国人研究者】

- バングラデシュ (Bangladesh Agricultural University、2名) 2023.5.15～2023.5.25
- 中国 (広東海洋大学、1名) 2023.6.19～2023.7.11
- 中国 (広東海洋大学、1名) 2023.6.30～2023.7.11

- バングラデシュ（Patuakhali Science and Technology University、1名）2023.7.1～2023.9.28
- インドネシア（グヌンキドゥル県職員、2名）2023.7.27～2023.8.13
- インドネシア（ガジャマダ大学、1名）2023.11.28～2024.5.27
- インドネシア（アイルランガ大学、1名（随行2名））2024.2.1～2024.2.7
- 中国（広東海洋大学、1名）2024.2.16～2024.2.22

国際総合科学部

学生国際交流プログラムの実施（オンラインを含む）

- 元国連職員藤野あゆみ氏による講演「国際社会と言葉—国連の立場から」実施（2023.12.27、参加者数：30名）
- フィリピン短期語学研修の事前研修にて、文化庁国語課松井孝浩氏（セブ駐在）による講演「多言語環境で暮らし、学ぶということ」実施（2023.8.29、参加者数：40名）
- 台湾にて、全台物流股份有限公司でのインターンシップへ学生を派遣。コンビニエンスストア（ファミリーマート）向け商品の仕分け業務体験などを実施（2023.7.10-14、参加学生数：6名）
- フィリピン短期語学研修を実施（2023.8.28-9.22、参加者数：108名）
- ポーランド・アダムミツケヴィッチ大学大学院生（博士課程）ミハウ氏によるワークショップ「ポーランドと中東欧についてのワークショップ」実施（2023.12.21、参加者数：20名）

学生国際交流プログラムの実施（オンラインを含む）

- ハンガリーの協定校 エトヴェシュ・ローランド大学とのオンライン学生交流会実施（2023.12.10、参加者数：山口大学7名（うち教員2名）、先方大学6名（うち教員1名））

国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- フィリピン短期語学研修の事前研修にて、小川仁志教授による「海外での語学研修の活かし方、日本人が英語を話すということ等について」研修実施
- フィリピン短期語学研修の事前研修にて、藤原まみ准教授による「映画で学ぶ言語習得『英国王のスピーチ』及び映画で学ぶフィリピン『ブランカとギター弾き』」研修実施
- フィリピン短期語学研修の事前研修にて、PBL QQ English チームによる英語プレゼン実施

その他

- 山口市国際交流課との留学生向けインターンシップへ学生を派遣（2024.2.6-13、参加

学生数：2名)

- 公認サークル FGSSER による留学生との交流イベント開催

東アジア研究科

国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- 山口大学・山東大学国際シンポジウム「東アジアの持続可能な発展と新たな交流に向けて—文化・教育・経済」（2023.6.10、参加者数：四十数名）
* 本学経済学部第一会議室にて、午前午後にわたって行われ、山東大学からは5名、山口大学からは東アジア研究科学生2名を含む8名が、それぞれ研究発表を行った。
- 貴州大学中日文学・文化交流会（2023.10.21、参加人数：約80名）
* 中国・貴州大学外国語学院201教室を会場に、オンラインとの複合開催とし、本研究科教員4名が研究発表を行った。中国側からは教員の他、学部学生・大学院生が多数出席した。

国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- 昨年(令和4年)度開催したシンポジウムの成果を書籍にまとめ、山口大学大学院東アジア研究科編「東アジアのパンデミック」(ISBN: 978-4-502-49821-3)として2024年3月末に中央経済社より刊行した。

技術経営研究科

国際会議・講演会等（オンラインを含む）

- MOT 国際シンポジウム ISAME2024(International Symposium on Asia MOT Education2024)
(2024.3.11 ONLINE 開催、参加者：60名)
バンドン工科大学（インドネシア）、ダナン科学技術大学（ベトナム）、マレーシア工科大学、マラ工科大学（マレーシア）、チェンマイ大学（タイ）、山口大学

学生国際交流プログラムの実施（オンラインを含む）

- MOT YUSS プログラム (The Institut Teknologi Bandung Sandwich PhD Program)
(2023.11.1-12.31、参加者：1名)
- MOT 海外短期研修プログラム (2024.3.3-3.5、参加者：7名)
タイ チェンマイ大学へ MOT 社会人学生2名、留学生2名と教員2名を派遣。チェンマイ大学学生との合同セッションを実施。

その他

- クロスアポイント教員の雇用
 - Niyata Kawewong 准教授（令和5年11月～12月、令和6年3月）【チェンマイ大学】

- Fitri Apriliaty 助教（令和 6 年 1 月～令和 6 年 3 月）【バンドン工科大学】
- Nur Arfah Binti Mustapha 助教（令和 6 年 1 月～令和 6 年 3 月）【マラ工科大学】